

高知県埋蔵文化財センター年報

第29号

2019年度

公益財団法人 高知県文化財団
埋蔵文化財センター

高知県埋蔵文化財センター年報

第29号

2019年度

公益財団法人 高知県文化財団
埋蔵文化財センター

序

公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターは大規模な開発に対応する円滑な発掘調査事業の推進とともに、高知県から指定管理者として委託を受け高知県立埋蔵文化財センターの施設並びに出土文化財の管理及び普及教育事業を行っています。

令和元(平成31)年度の発掘調査事業は発掘調査が2件、整理業務が2件で、国事業は南国芸道路建設事業に伴う整理業務、県事業では都市計画道路高知南国線建設に伴う発掘調査及び整理業務、都市計画道路はりまや町一宮線建設に伴う発掘調査が実施されました。

指定管理事業では公開展示、公開講座、出前考古学教室などを実施しています。公開展示では高知県立埋蔵文化財センターで3回、館外で1回の展示を行い、公開講座は年39回開催しました。企画展等の展示会では分かりやすい展示に努めるとともに、企画展示にあわせたフィールドワークも実施しています。昨年度に引き続き県内にある中世城郭の講座とフィールドワークを行い195人の参加があり好評でした。そして、埋蔵文化財への関心を高め興味を持ってもらうため「まいぶんセンターまつり」を開催し、当日は親子連れなど320人の参加が有り、来館者は4,968人となりました。また、出前考古学教室は県内の小学校を中心に73回、計2,423人の児童等を対象に実施しました。

その他、年間行事カレンダーの作成やホームページの更新を随時行うなど利用者の便宜を図るとともに、高知県文化財団事業である「ワークショップ@bunkazaidan こどもクラブ」への参加など当センターに親しんで頂けるよう努めています。

今後も埋蔵文化財の発掘調査事業を担いつつ、これまでの成果をより多くの県民の方に伝える普及教育事業をさらに推進し、県民文化の振興に資する施設と同時に土佐のいにしえを紐解く場所にしていきたいと思っております。

これからも皆様のご協力とご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年3月

公益財団法人高知県文化財団 埋蔵文化財センター
所 長 松田 直則

例言

- 1.本書は公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの令和元(2019)年度事業の概要をまとめたものである。
- 2.「Ⅲの2の(1)~(4)」及び「Ⅳ」は担当が中心となって執筆し、吉成が取りまとめ編集した。

本文目次

I 公益財団法人高知県文化財団..... 1	(3) 休館日..... 6
1. 公益財団法人高知県文化財団の概要..... 1	(4) 埋蔵文化財センター所在地及び連絡先..... 6
(1) 設立趣旨..... 1	III 年間事業の概要..... 7
(2) 目的等..... 1	1. 発掘調査受託事業..... 7
(3) 設立年月日..... 1	(1) 発掘調査事業..... 9
(4) 名称変更年月日..... 1	(2) 整理事業..... 10
(5) 事務局所在地..... 1	2. 指定管理事業..... 11
2. 公益財団法人高知県文化財団の組織..... 2	(1) 高知県立埋蔵文化財センター管理事業..... 11
(1) 財団組織..... 2	(2) 普及教育事業..... 11
(2) 財団役員..... 2	(3) 研修事業..... 29
II 埋蔵文化財センター..... 3	(4) 講師等職員の派遣..... 30
1. 埋蔵文化財センターの概要..... 3	IV 各遺跡の発掘調査概要..... 31
(1) 設立趣旨..... 3	1. 若宮ノ東遺跡(19-1NW)..... 31
(2) 事業内容..... 3	2. 新堀川護岸(19-2KS)..... 33
(3) 設立年月日..... 3	V 条例・規則等..... 35
(4) 埋蔵文化財センター所在地..... 3	1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に 関する条例..... 35
2. 埋蔵文化財センターの組織..... 3	2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に 関する条例施行規則..... 39
(1) 埋蔵文化財センターの組織図..... 3	3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指 定..... 40
3. 埋蔵文化財センターの施設..... 5	
4. 利用方法等について..... 6	
(1) センターの利用..... 6	
(2) 利用時間..... 6	

表目次

表 1 高知県文化財団評議員..... 2	表11 令和元年度まいぶん講座..... 17
表 2 高知県文化財団役員..... 2	表12 令和元年度公開講座2(親子考古学教室)..... 18
表 3 令和元年度高知県埋蔵文化財センター職員一覧 4	表13 平成10～令和元年度出前考古学教室実績一覧 22
表 4 発掘調査推移表..... 7	表14 令和元年度出前考古学教室前期実績一覧(授業 実施数)..... 24
表 5 令和元年度受託事業(発掘調査)一覧..... 8	表15 令和元年度出前考古学教室後期実績一覧(授業 実施数)..... 25
表 6 令和元年度受託事業(整理遺跡)一覧..... 10	表16 令和元年度出前考古学教室実績一覧..... 25
表 7 入館者推移表と令和元年度の入館者..... 12	表17 令和元年度団体施設見学一覧..... 26
表 8 公開講座参加者数..... 15	表18 令和元年度物品・遺物(県有物)貸出一覧..... 28
表 9 令和元年度公開講座1..... 16	
表10 令和元年度遺跡解説会..... 16	

表19 令和元年度職員専門研修.....	30	表21 令和元年度講師派遣・調査指導等実績一覧....	30
表20 令和元年度埋蔵文化財担当者研修.....	30		

図目次

図 1 高知県文化財団組織図.....	2	図 6 令和元年度受託事業(発掘調査)位置図.....	8
図 2 埋蔵文化財センター組織図.....	3	図 7 令和元年度受託事業(整理遺跡)位置図.....	10
図 3 高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F 平面図 (S=1/800)	5	図 8 入館者に占める親子考古学教室参加者の割合	19
図 4 高知県立埋蔵文化財センター2F 平面図(S=1/800)	6	図 9 若宮ノ東遺跡位置図.....	31
図 5 発掘調査受託事業推移グラフ	7	図10 新堀川護岸位置図.....	33

写真目次

写真 1 年間行事カレンダー.....	12	写真14 城郭研究者の山城講座と城歩き(久礼田城跡)	21
写真 2 ゴールデンウィーク企画(古代衣装体験)....	13	写真15 考古学授業.....	21
写真 3 速報展ポスター.....	13	写真16 展示解説.....	22
写真 4 巡回展ポスター.....	14	写真17 火起こし.....	23
写真 5 企画展ポスター.....	14	写真18 団体見学.....	27
写真 6 移動展ポスター.....	15	写真19 本館ロビー古代衣装体験.....	29
写真 7 先生のための遺跡調査入門講座(発掘体験)	17	写真20 イオンワークショップ(展示).....	29
写真 8 古代ものづくり体験教室(ガラス勾玉づくり)	17	写真21 職員専門研修.....	29
写真 9 親子考古学教室チラシ.....	18	写真22 遺構完掘状態.....	31
写真10 まいぶんセンターまつりポスター.....	19	写真23 土器棺墓完掘状態.....	32
写真11 まいぶんセンターまつり(会場).....	20	写真24 井戸跡完掘状態.....	32
写真12 考古学研究最前線解説会(講座).....	20	写真25 第1遺構面遺構完掘状態(北西より).....	33
写真13 考古学から学ぶ史跡の見方(勝瑞城館跡)....	20	写真26 第3遺構面遺構完掘状態(西より).....	34

I 公益財団法人高知県文化財団

1. 公益財団法人高知県文化財団の概要

(1) 設立趣旨

近年、所得水準の向上や自由時間の増大等を背景に、生活のゆとりを楽しみ、人間らしい生き方を求める、いわゆる生活の質的向上に対する文化的ニーズが急速に高まりつつあり、県民の意識、行動の中に、広く芸術文化に親しみ、歴史と伝統、個性ある文化を再評価すると共に、これらの活動に積極的に参画することに生活の意義を見出し、人間としての充実感を高める、という方向が現われてきている。

このような時代趨勢の中で、県では、平成3年春に歴史民俗資料館、埋蔵文化財センターが発足し、その数年後には美術館が開館する等、県民文化の振興のための施設整備がなされてきた。これらの施設の運営は勿論のこと、県下の芸術文化に係る諸事業が、多様化する県民の文化的ニーズを的確に捉え、県民の期待に応えるかたちでなされることによってこそ、県民の芸術文化への意識が一層高まり、これからの個性豊かな、新しい県民文化が育まれるものである。

このため、県民の総意を汲み、一致協力して、これからの県民文化の振興を図って行くことのできる体制作りが必要であるという認識のもと、ここに高知県と関係諸団体によって、財団法人高知県文化財団を設立し、もって本県の新しい時代の総合的、体系的な芸術文化活動の展開を担う中核的推進母体として役割機能を果たすことにより、広く県民意識を高揚し、県民福祉と県勢の発展に寄与しようとするものである。

(2) 目的等

この法人は、芸術文化の振興及び文化財等の調査研究、収集、保存、活用等を図り、県民の教育、学術及び文化の振興に寄与することを目的とするとともに、その目的を達成するため、次の事業を行う。

- ① 音楽、演劇、美術その他の芸術文化振興事業
- ② 文化財等の調査研究、整理保存、展示等の事業
- ③ 委託等を受けた芸術文化施設の管理運営
- ④ その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(3) 設立年月日

平成2年3月28日

(4) 名称変更年月日

平成24年4月1日財団法人高知県文化財団から公益財団法人高知県文化財団へ移行

(5) 事務局所在地

高知県高知市高須353番地2

2. 公益財団法人高知県文化財団の組織

2. 公益財団法人高知県文化財団の組織

(1) 財団組織

① 役員

評議員7名 理事長1名 理事12名 監事2名

② 事務局

総務部長－総務課長－事務職員

③ 組織図

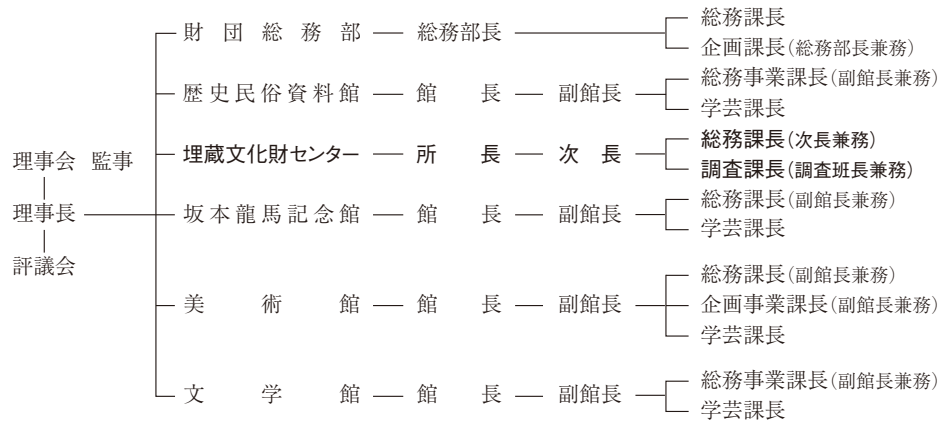


図1 高知県文化財団組織図

(2) 財団役員

表1 高知県文化財団評議員

役員名	氏名	所属役職名	備考
評議員	大野 正貴	高知市長会事務局長	平成30年10月3日就任
〃	岡村 昭一	高知県教育委員会事務局教育次長	平成30年6月20日就任
〃	黒下 則之	(株)四国銀行常務取締役	平成30年7月31日就任
〃	三宮 昌子	(株)高知銀行常務取締役	平成28年6月8日就任
〃	笹岡 貴文	高知県町村会事務局長	令和元年7月31日就任
〃	高橋 慎一	高知県文化生活スポーツ部副部長	令和元年6月12日就任
〃	又川 晃世	(株)高知新聞社学芸部長	平成28年6月8日重任

令和2年3月27日現在

表2 高知県文化財団役員

役員名	氏名	所属役職名	備考
理事長	井奥 和男		平成30年6月20日就任
理事	池田 洋光	高知県町村会会長	平成30年6月20日重任
〃	岡崎 順子	高知県立文学館長	平成30年6月20日重任
〃	岡崎 誠也	高知市長会会長	平成30年6月20日重任
〃	高松 清之	高知県立坂本龍馬記念館長	平成30年6月20日重任
〃	野嶋 佐由美	高知県立大学学長	平成30年6月20日重任
〃	橋口 欣二	高知県文化生活スポーツ部長	平成31年4月1日就任
〃	藤田 直義	高知県立美術館長	平成30年6月20日重任
〃	古谷 純代	高知商工会議所副会頭	平成30年6月20日重任
〃	宮田 速雄	(株)高知新聞社代表取締役社長	平成30年6月20日重任
〃	森下 勝彦	(株)高知銀行代表取締役頭取	平成30年6月20日重任
〃	山元 文明	(株)四国銀行代表取締役頭取	平成30年7月31日就任
〃	山本 眞壽	染織家	平成30年6月20日重任
監事	西村 純子	(株)四国銀行地域振興部長	平成30年7月31日就任
〃	廣光 良昭	税理士	平成28年6月8日重任

令和2年3月27日現在

Ⅱ 埋蔵文化財センター

1. 埋蔵文化財センターの概要

(1) 設立趣旨

公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターは、高知県における埋蔵文化財の調査研究及び資料の保存管理を行うと共に、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図り、本県の文化振興に寄与することを目的とする。

(2) 事業内容

① 埋蔵文化財の発掘調査

県内における遺跡の発掘調査を実施し、報告書を刊行する。

② 埋蔵文化財の保存管理

発掘調査等による出土遺物、調査記録等の管理及び保管を行う。

③ 埋蔵文化財の研究・普及啓発

埋蔵文化財について調査研究を行うと共に、その成果をもとにした出土遺物の公開展示、現地説明会及び展示会の開催等により、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図る。

④ 埋蔵文化財に関する資料収集及び情報提供に関すること

⑤ 高知県立埋蔵文化財センターの管理・運営に関すること

(3) 設立年月日

平成3年4月1日

(4) 埋蔵文化財センター所在地

高知県南国市篠原1437-1

2. 埋蔵文化財センターの組織

(1) 埋蔵文化財センターの組織図

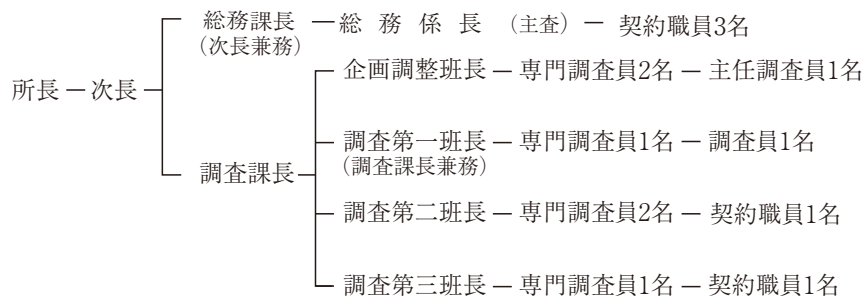


図2 埋蔵文化財センター組織図

2. 埋蔵文化財センターの組織

表3 令和元年度高知県埋蔵文化財センター職員一覧

職 名		氏 名	所 属・派遣元	
所 長		松 田 直 則	(公財)高知県文化財団	
次長(兼総務課長)		和 田 安 弘	県教育委員会文化財課主任(1種)	
総務課	総務課長(兼次長)	和 田 安 弘	〃	
	総務係長 主査	吉 森 和 子 門 田 香 織	(公財)高知県文化財団(令和元年6月退職) (公財)高知県文化財団(令和元年7月採用)	
	契約職員	今 田 琴 美	(公財)高知県文化財団	
	〃	廣 内 美 登 利	〃	
	〃	笹 野 女 怜	〃	
調査課	調査課長(兼第一班長)		吉 成 承 三	〃
	企画調整班	企画調整班長	坂 本 裕 一	県教育委員会文化財課主任(4種)
		専門調査員	江 間 盛 男	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
		〃	小 島 義 雄	〃
		主任調査員	山 崎 孝 盛	県教育委員会文化財課主幹
	調査第一班	調査第一班長 (兼調査課長)	吉 成 承 三	(公財)高知県文化財団
		専門調査員	徳 平 涼 子	〃
		調査員	下 木 千 佳	県教育委員会文化財課主事
	調査第二班	調査第二班長	坂 本 憲 昭	(公財)高知県文化財団
		専門調査員	西 村 豊 史	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
		〃	久 家 隆 芳	(公財)高知県文化財団
		契約職員	谷 幸 絵	〃
	調査第三班	調査第三班長	池 澤 俊 幸	県教育委員会文化財課主任(4種)
		専門調査員	筒 井 三 菜	(公財)高知県文化財団
		契約職員	奥 宮 千 恵 子	〃

3. 埋蔵文化財センターの施設

埋蔵文化財センターの施設は、現在本館、北館、南館、収蔵庫の4棟の建物(図3・4)で構成されており、本館と収蔵庫が平成12・13年度の国庫補助事業、南館が平成4・5年度の国庫補助事業、北館が平成2年度の県単事業として建設されたものである。

平成13年12月4日に落成した本館には、展示・研修室や特別収蔵庫、さらに情報管理室が確保され、調査・研究以外に公報・普及活動にも活用されている。

収蔵管理スペースとして、遺物保管がコンテナケース(W390mm・D590mm・H190mm換算)にして収蔵庫(3層)に30,000箱、南館1Fに4,416箱の計34,416箱、図書・図面保管庫には報告書等の書籍(H297mm・D210mm・W12mm平均として)が100,800冊、A1図面ファイル(H622mm・D442mm・W28mm換算)が3,360冊、A2図面ファイル(H440mm・D315mm・W28mm換算)が10,080冊、写真保管室には写真ファイル(H325mm・D315mm・W35mm換算)が9,472冊収納できるように設計している。

なお、施設の概要は以下のとおりである。

所在地 : 高知県南国市篠原1437-1

敷地面積 : 4,203 m²

建物構造 : 本館・北館・南館 重量鉄骨構造2階建

収蔵庫 : 重量鉄骨構造平屋建(3層積層収蔵棚)

建築面積 : 2,073.93 m²

(本館:615.58m² 北館:259.20m² 南館:574.11m² 収蔵庫:619.40m² プロパン庫:5.64m²)

延床面積 : 4,136.16 m²

(本館:1,038.68m² 北館:518.40m² 南館:1,045.92m² 収蔵庫:1,527.52m² プロパン庫:5.64m²)

事業費 : 650,644,000円(本館・北館・南館・収蔵庫を含む)

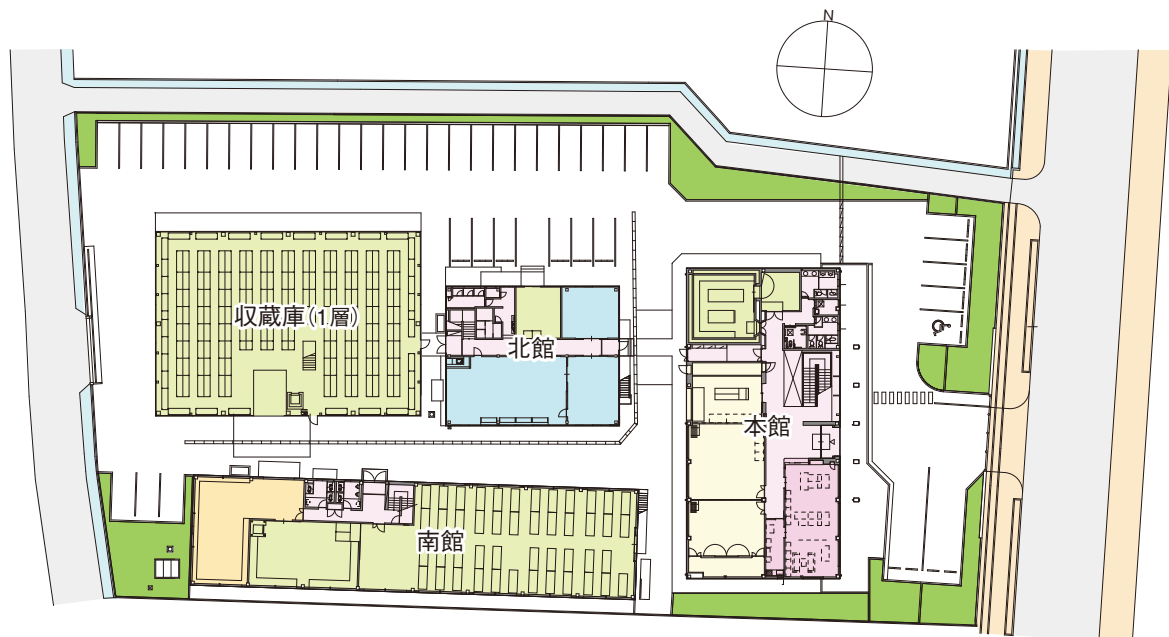


図3 高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F平面図(S=1/800)

4. 利用方法について

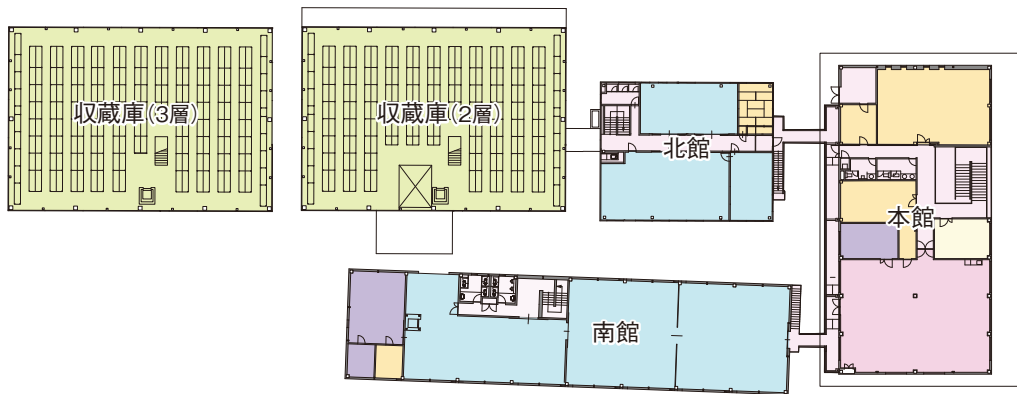


図4 高知県立埋蔵文化財センター2F平面図(S=1/800)

4. 利用方法等について

(1) センターの利用

利用者は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料の観覧、閲覧、撮影又は模写等ができる。

(2) 利用時間

午前8時30分から午後5時まで

(3) 休館日

土曜日、公開展示期間以外の日曜・祝日、年末年始(12月29日～1月3日)

(4) 埋蔵文化財センター所在地及び連絡先

住所.....〒783-0006 高知県南国市篠原1437-1

Tel.....代表(088)864-0671 調査課(088)864-6266

Fax.....代表(088)864-1423 調査課(088)864-6268

Email.....maibun@kochi-bunkazaidan.or.jp

URL.....<https://www.kochi-maibun.jp/>

Ⅲ 年間事業の概要

1. 発掘調査受託事業

令和元年度に受託した件数は5件で、国土交通省(県教育委員会からの再委託)及び高知県からの委託を受け、南国安芸道路、都市計画道路高知南国線、都市計画道路はりまや町一宮線、県道甲殿弘岡上線の各建設事業に伴う発掘調査及び整理作業及び高知城石垣カルテ作成を行った。受託契約事業費は196,396,600円で、事業費の内訳は、国関係が39,930,000円(20%)、県関係が156,466,600円(80%)であった。

国事業は南国安芸道路建設に伴う高田遺跡(香南市野市町下井地区)と、東野遠山遺跡(香南市野市町東野地区)の報告書公刊に向けた整理事業を実施した。

県事業では都市計画道路高知南国線建設に伴う若宮ノ東遺跡(南国市篠原)、都市計画道路はりまや町一宮線建設に伴う新堀川護岸(高知市菜園場町)、高知城石垣カルテ作成(高知市丸ノ内)、県道

表4 発掘調査推移表

年 度	件数	受託面積	年 度	件数	受託面積
平成 3年度	16件	25,910㎡	平成18年度	9件	38,119㎡
平成 4年度	11件	14,663㎡	平成19年度	11件	41,662㎡
平成 5年度	16件	17,010㎡	平成20年度	11件	53,792㎡
平成 6年度	10件	28,233㎡	平成21年度	11件	34,500㎡
平成 7年度	14件	28,856㎡	平成22年度	5件	29,831㎡
平成 8年度	20件	90,546㎡	平成23年度	6件	42,508㎡
平成 9年度	14件	93,675㎡	平成24年度	3件	34,498㎡
平成10年度	20件	111,902㎡	平成25年度	4件	4,554㎡
平成11年度	23件	41,320㎡	平成26年度	0件	0㎡
平成12年度	6件	27,314㎡	平成27年度	3件	6,950㎡
平成13年度	31件	21,853㎡	平成28年度	3件	8,647㎡
平成14年度	28件	10,488㎡	平成29年度	4件	10,010㎡
平成15年度	17件	6,052㎡	平成30年度	4件	9,956㎡
平成16年度	16件	34,285㎡	令和元年度	5件	3,516㎡
平成17年度	23件	58,084㎡	合 計	344件	928,734㎡

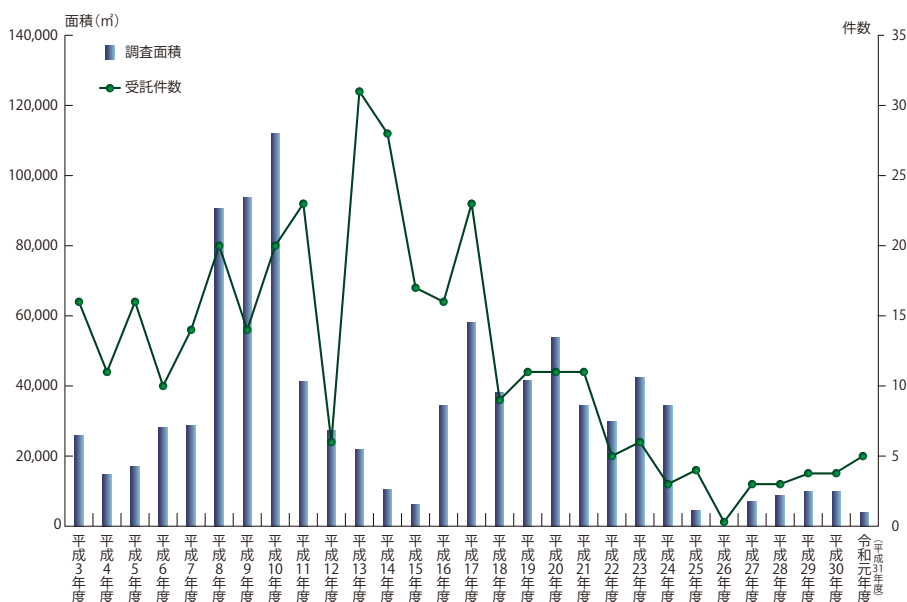


図5 発掘調査受託事業推移グラフ

1. 発掘調査受託事業

甲殿弘岡上線建設に伴う森山城跡の4件の調査が行われた。この内、高知城石垣カルテ作成業務については県教育委員会文化財課から委託を受け、高知城跡本丸石垣についての石垣カルテを作成する新規事業である。また、県道甲殿弘岡上線については県土木との契約による新規事業であり、県道拡幅工事に伴う城跡の発掘調査事業である。4件の調査の内、発掘調査を実施したのは若宮ノ東遺跡と新堀川護岸の2件である。

埋蔵文化財センターの体制(図2,表3)は、正職員13名(嘱託職員と契約職員を含めると20名)であった。内訳は考古専門職員が8名(県派遣2名,財団職員5名,嘱託職員1名),県派遣の事務職員が1名,派

表5 令和元年度受託事業(発掘調査)一覧

No.	遺跡名	遺跡略号	所在地	時代	種別	調査面積	調査期間	事業者	原因	委託者
1	若宮ノ東遺跡	19-1NW	南国市篠原	弥生 ～ 近世	集落跡	2,639㎡	R1.5.7 ～ 11.22	高知県	道路	高知県
2	新堀川護岸	19-2KS	高知市菜園場町	近世 ～ 近代	石垣 護岸	877㎡	R1.9.26 ～ R2.1.31	〃	〃	〃
合計						3,516㎡				

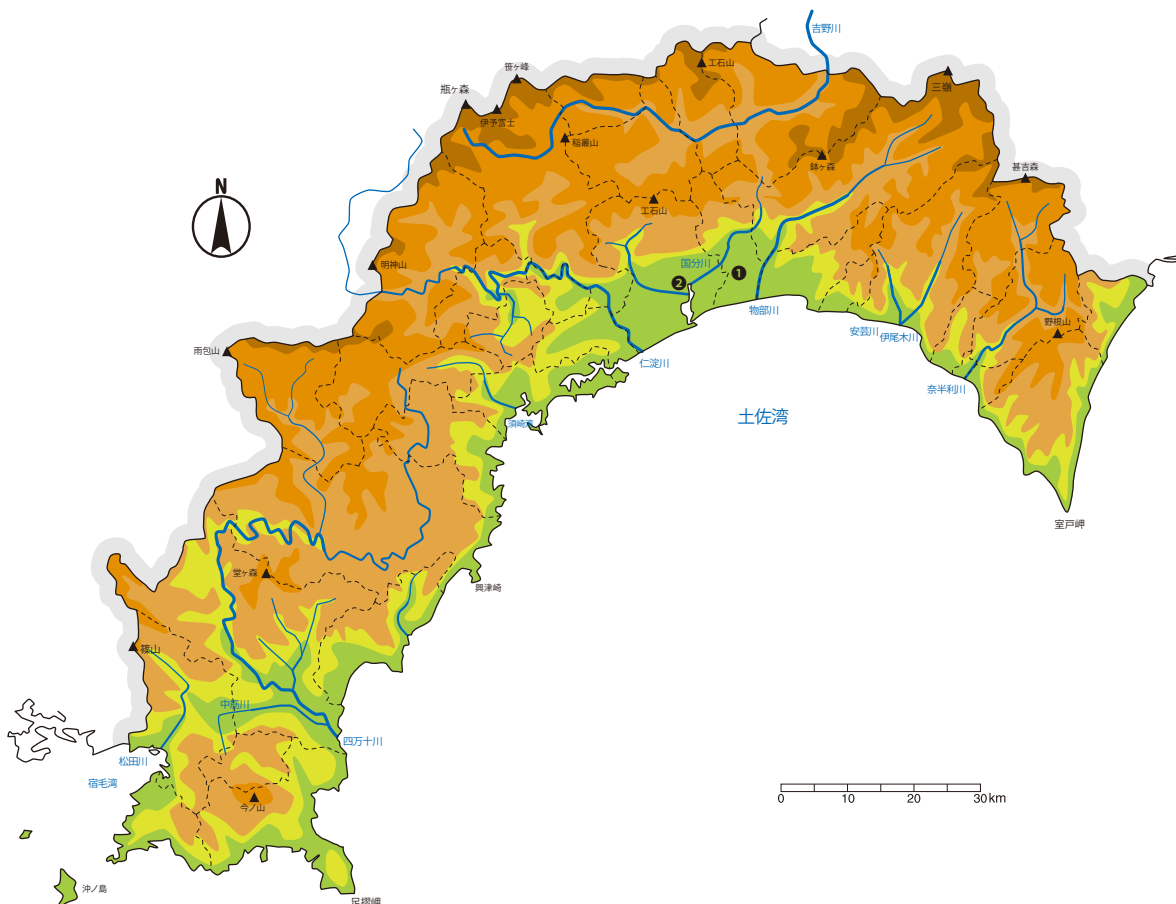


図6 令和元年度受託事業(発掘調査)位置図(番号は受託事業(発掘調査)一覧表の番号と一致)

遣教員が5名、財団事務職員(嘱託職員)が1名、財団契約職員(事務補助)が5名である。組織構成は所長、次長の下に総務課と調査課を置き、総務課は総務課長(次長兼務)1名、総務係長1名、主査1名、契約職員3名、調査課は調査課長が第一班長を兼務しており、発掘調査事業を行う調査第一班から調査第三班を配置した。調査課の人員内訳は調査課長(第一班長兼務)1名、企画調整班長1名、調査班長2名、調査員8名(専門調査員6名、主任調査員1名、調査員1名)、契約職員2名であり、この内実質的に発掘調査及び整理作業を担当するのは調査班長2名(財団職員1名、派遣教員1名)、調査員5名(県派遣職員1名、財団職員3名、派遣教員1名)である。

令和元年度の調査課の業務分担は、企画調整班が物品・遺物(県保有物)等の貸出やホームページの管理などの情報公開、企画展等事業・公開講座等事業・出前考古学教室など指定管理に関わる普及教育業務、調査第一班が都市計画道路はりまや町一宮線、調査第二班が都市計画道路高知南国線、調査第三班が南国安芸道路、高知城石垣カルテ作成に関する業務であった。

(1) 発掘調査事業

令和元年度の発掘調査事業件数は4件であった。委託元は高知県教育委員会と高知県であり、高知県教育委員会からの受託事業には国関係の再委託と高知城石垣カルテ作成業務、高知県からの受託事業には都市計画道路高知南国線建設に伴う若宮ノ東遺跡の発掘調査と整理業務、都市計画道路はりまや町一宮線建設に伴う新堀川護岸の発掘調査であった。

各事業について具体的にみると、高知県教育委員会から受託した国関係の事業は高知龍馬空港 IC から香南のいち IC 間の発掘調査を行っており、平成27年度から平成30年度にかけて発掘調査を実施した香南市野市町下井地区の高田遺跡、および同町東野地区の東野遠山遺跡について報告書公刊に向けた整理事業が実施された。高田遺跡は物部川河岸段丘上に立地し、平成27年度から継続的に発掘調査が行われている。弥生時代後期の竪穴建物跡や、古代の掘立柱建物跡などが検出されており、平成30年度の調査では幅10mを越える古代道路の側溝が検出された。県内では、道路幅、検出延長ともに最大規模であり、南海道と推定される遺構である。

県関係では、平成28年度から始まった都市計画道路高知南国線建設に伴う若宮ノ東遺跡の発掘調査が継続して行われ、令和元年度以降も発掘調査を継続して実施する予定である。令和元年度の調査では、今までの調査区でも確認されている弥生時代後期の竪穴建物跡、古代の掘立柱建物跡の他に、中世の溝で区画される屋敷跡が検出され、東西に伸びる道路計画対象範囲の中で時代的な様相の変化がみられる。都市計画道路はりまや町一宮線については、高知城跡の外堀に該当する新堀川を道路化する計画があり、平成30年度に護岸石垣および工場の影響を受ける部分について調査が実施された。調査の対象になった場所は高知市の新堀川に面した横堀公園で、確認調査を行った結果、明治期、19世紀、18世紀後半～19世紀、17世紀後半～18世紀前半の4時期の遺構面が確認されたため、公園部の本調査を実施した。江戸時代中期と、幕末から近代にかけての遺構面を4面確認した。

また、今年度からの新規事業としては、高知県教育委員会から委託を受け、史跡高知城跡の本丸石垣についての測量を実施し、現状の石垣の築石(石材、割れの有無)・間詰め(抜けがないか)・積み(孕み出しの有無)等の診断を実施し、各石垣の矩勾配を算出し、高知城石垣カルテを作成した。

1. 発掘調査受託事業

(2) 整理事業

令和元年度の整理事業件数は2件であった。委託元は高知県教育委員会から国土交通省南国安芸道路建設事業に関連する高田遺跡・東野遠山遺跡，高知県から都市計画道路高知南国線建設に伴う若宮ノ東遺跡の整理事業を受託し実施した。

高田遺跡・東野遠山遺跡は香南市野市町下井地区・東野地区に所在し，平成29・30年度調査分について報告書公刊に向けた整理作業を行った。高田遺跡については古代官道がみつきり，今までの調査で確認されている奈良から平安時代にかけての遺構群を含めて報告する予定である。若宮ノ東遺跡は南国市篠原に所在し，長岡台地から平野部に続く変換地点に位置する。整理作業では平成28・29年度調査分の遺物について実測・トレース作業を中心に実施した。

表6 令和元年度受託事業(整理遺跡)一覧

No.	遺跡名	遺跡略号	所在地	時代	種別	整理期間	事業者	原因	委託者
1	高田遺跡 東野遠山遺跡	17-3KT・18-2KT 17-2KHT	香南市下井地区 香南市東野地区	弥生・ 古代	集落跡	H31.4.1 ~ R2.3.31	国交省	道路	高知県
2	若宮ノ東遺跡	16-3NW 17-1NW	南国市篠原	弥生・ 古墳	〃	〃	高知県	〃	〃

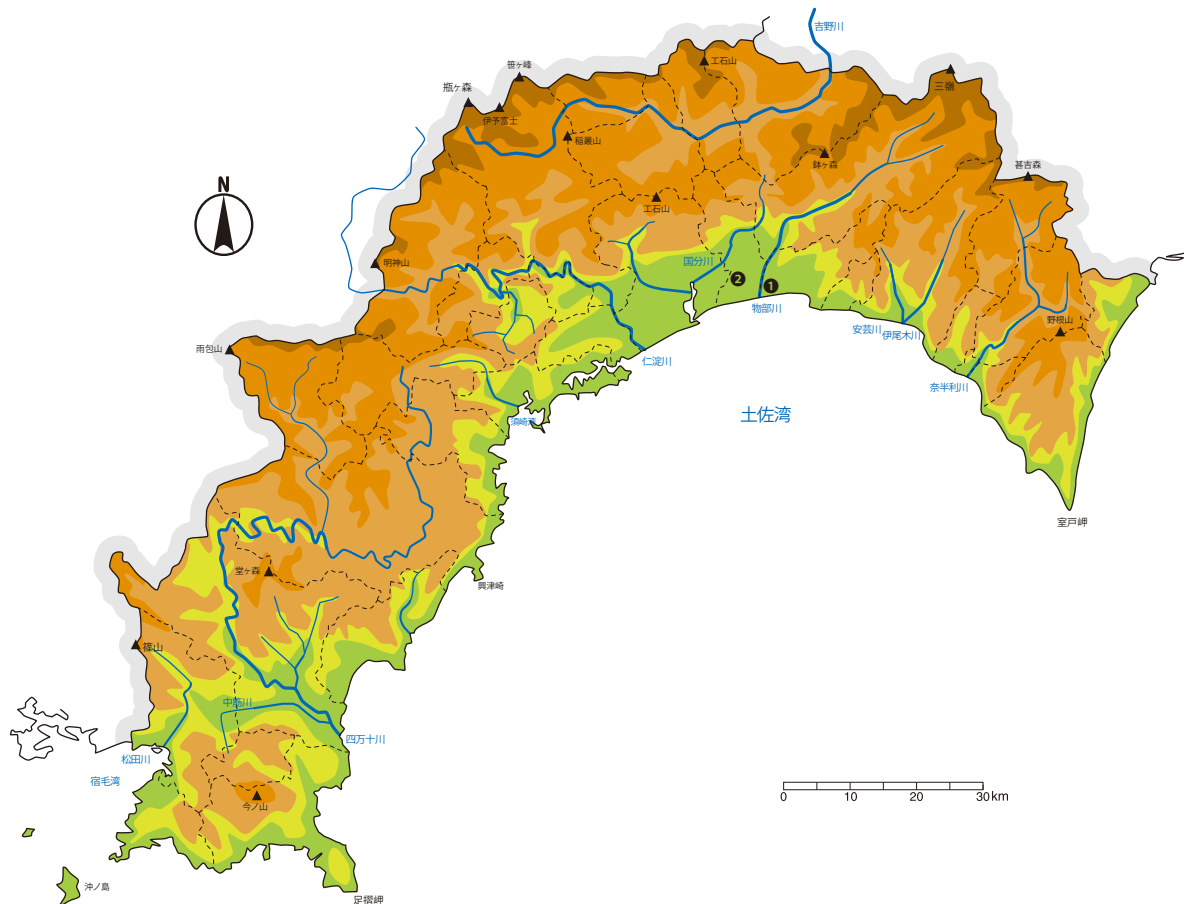


図7 令和元年度受託事業(整理遺跡)位置図(番号は受託事業(整理遺跡)一覧表の番号と一致)

2. 指定管理事業

高知県教育委員会が高知県立埋蔵文化財センターの管理運営代行業務に関して導入した現在の指定管理者の指定期間は平成30年4月1日から令和5年3月31日までの5年間であり、令和元年度(平成31年度)はその2年目に該当する。

主な業務内容は、管理事業と普及教育事業である。管理事業は、埋蔵文化財保護の中核施設として最適な施設管理を行うとともに、発掘調査による出土遺物を出土文化財として適切に保管・管理を行っている。普及教育事業では、発掘調査成果や出土文化財を活用し、企画展示や各種講座を開催することによって埋蔵文化財保護の推進に努めている。その他に職員の資質向上を図る研修事業と講師等職員派遣事業を行っている。

(1)高知県立埋蔵文化財センター管理事業

①施設管理

高知県立埋蔵文化財センターの施設・設備について適切な利用が図れるよう管理を行い、必要なものについては、事前承認を得たうえで再委託により実施した。施設機器の故障等については、協定書に基づき施設管理者として必要な修理等を随時行い、業務に支障の無いように維持管理をした。

また、外構施設の日常的な除草等植栽管理、環境整備については、職員で年6回美化活動を実施した。

②出土文化財等資料管理

i 出土文化財、図書等の資料管理

「高知県立埋蔵文化財センター資料管理要領」に基づき、適切な管理に努めた。また、新規に受け入れた資料については要領に基づき情報管理データベースに登録し、更新することにより活用の利便を図った。

ii 遺物及び写真資料の再整理

文化庁補助事業「県内埋蔵文化財 地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」を活用し、収蔵遺物の再整理として、報告書掲載遺物と収蔵遺物との照合作業とともに必要なものについては接合・補填等の修復作業を行っている。今年度は『小籠遺跡』や『上ノ村遺跡』など19遺跡3,016点について実施した。

また、写真資料の保存と活用のために、ポジフィルムをスキャナで読み込みデジタルデータ化する作業を行った。本年度は、『田村遺跡群』（高知県教育委員会1981）の100点について実施し、デジタルアーカイブとしてHDDに収納し保管している。

(2)普及教育事業

埋蔵文化財センターの入館者は、展示会観覧者と公開講座の参加者が中心であるが、施設見学や体験学習を行う団体見学や研究を目的とした出土文化財等の資料調査での来館もある。

今年度の入館者総数は4,968人(昨年度3,630人)で、対前年度比は約37%増であった。開館日数は288日(昨年度294日)で、8月は台風により1日、3月には新型コロナウイルス対策で14日間の臨時休館があった。開館日1日当たりの来館者数をみると、17.3人と昨年度の12.4人から大きく増加している。

入館者数増の主な要因としては、これまでの広報活動の積み重ねとともに今年度から企画展などのポスター、チラシの配布先を増やしたことがあげられる。これまでは教育関係機関や学校、県内

2. 指定管理事業

の歴史系博物館を中心に行っていたが、今年度からは県内の歴史系以外の博物館や資料館16箇所と道の駅などの観光施設70箇所にも配布を行った。この効果は県外からの来館者が228人と昨年度の97人から大幅に増加したことに表れている。当センターの存在が県外からの観光者やこれまで遺跡などに関心のなかった方などにも目に留まる機会が増えたことによるものと思われる。加えて、当施設は入館無料で比較的短時間でも観覧ができることや、高知龍馬空港や高知自動車道の南国ICに近いなどの立地も観光者などに立ち寄りやすい条件になっていると考えられる。平日の入館者も増加しており、自転車や徒歩での近隣からの来館が増えている。

「出前考古学教室」や近隣から気軽に参加できる「まいぶんセンターまつり」などの開催に加えて、本館ロビーのスペースを楽しみながら遺跡や考古学など高知県の歴史について学べるコーナーとしたことで、近隣の小学生が放課後や休日に来館してくれる姿がよくみられるようになった。このコーナーは、一般の来館者にも認知されたようで、展示開催期間以外の入館者数をみても今年度は381人(38日)と昨年度(58人/39日)に比べて大幅に増加している。

平成30年度から始めたスタンプラリーは、各地に配布している年間行事カレンダーに記載しており、展示観覧や講座参加の際にスタンプを求める方も多くみられ、来館のきっかけやリピーター獲得につながっている。

また、新たな取り組みとしてゴールデンウィーク期間中(4/28~5/6)の体験企画として火起し体験、古代衣装体験、弥生集落立体パズル体験を実施した。県内全児童へ案内チラシを配布し、期間中の来館者は180人(昨年度96人)で対前年度比は約88%増となり、この時期のイベント開催の効果がみられた。

学校や各種団体等からの団体見学や考古学に関連する実習や研修、博物館実習なども年度によって申込みの増減がみられるものの、積極的に受け入れている。近年受け入れを始めた中学生の職場体験学習では学校機関との連携をさらに強め、積極的に取り組んでいくことが当センターの業務の



写真1 年間行事カレンダー

表7 入館者推移表と令和元年度の入館者

年度	合計(人)	入館者内訳(人)		展示会内訳(人)					展示報告・解説参加者(人)
		子供	大人	巡回展	速報展	企画展	特別展	移動展	
H25年度	3,205	1,342	1,863	1,431	625	415	621	-	208
H26年度	3,120	1,428	1,692	1,320	686	560	396	158	117
H27年度	4,040	1,591	2,449	1,640	725	870	422	175	87
H28年度	4,651	1,583	3,068	2,121	790	-	1,394	249	138
H29年度	3,884	2,715	1,169	1,513	730	-	1,484	379	81
5年間合計	18,900	8,659	10,241	8,025	3,556	1,845	4,317	961	631
H30年度	3,630	949	2,681	1,294	728	-	1,550	472	110
R元年度	4,968	1,413	3,555	1,538	1,190	1,859	-	415	369
合計(人)	27,498	11,021	16,477	10,857	5,474	3,704	5,867	1,848	1,110

※令和元年度から企画展1の名称を「速報展」、企画展2を「企画展」とした。

理解推進や文化財保護の普及啓発活動にも大きく関わってくるものと考えられる。今後も出前サービスは継続しつつ、公開展示や本館ロビー学習コーナーの工夫、発掘現場や施設の見学、体験メニューの充実を図り、学校関係だけでなく一般の団体・サークル等にも魅力的な施設となる取り組みを継続していきたい。

入館者数の恒常的な安定と増加には、当館の特色である考古学の専門性を活かしながらも気軽に参加でき、遺跡や地域の歴史に対する知的好奇心を刺激する展示や講座のテーマと内容を工夫し、体験メニューの拡充を続けるとともに、来館者の満足度を向上させるための施設環境の整備も引き続き行っていかねばならない。

また、館外へも出向いて展示や講座を提供するなど、地域学習や歴史学習に欠くことのできない施設であることをより一層アピールしていきたい。

以下、各事業について報告する。

①企画展等展示会

埋蔵文化財センターの展示室を会場として、発掘調査の成果の公開活用のため年間を通じて3回開催している。今年度は、春期には近年の発掘調査成果を紹介する「発掘速報展」、夏期の「巡回展」は四国4県5団体の埋蔵文化財センターが共同開催し4県の会場を巡回展示する発掘へんろ展、秋～冬期には各時代や考古学研究の成果をテーマとする「企画展」を実施した。観覧者総数は4,587人で、対前年度比は約28%増(昨年度3,572人)となった。

また、平成26年度から開催している「移動展」は、遺跡が所在する地域を会場として開催するもので、今年度は本山町で開催した。

各展示会の会期中には、展示の内容への理解を深め、より興味を持ってもらうため当センターの担当職員によるギャラリートーク、展示報告会などを実施し、展示解説パンフレットの配布を行った。また、観覧者へのきめ細かい対応として、展示室前に要望に応じて展示解説を行う旨の案内板を設け、解説を随時行った。

i 速報展

香南市の「東野土居遺跡」を取り上げ、弥生時代から近世に続く集落の姿や城館跡を始めとする中世遺構と長宗我部氏との繋がりなど地域の歴史を紹介した。4月21日から7月5日まで開催し、関連行事としてギャラリートークを2回、展示報告会を1回行った。観覧者数は1,190人(昨年度企画展1は728人)で対前年度比は約63%増であった。

ii 巡回展(四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展)

今年度は「四国の風土と暮らしー海と人々1 縄文～弥生



写真2 ゴールデンウィーク企画(古代衣装体験)



発掘速報展 東野土居遺跡 2019 4.21-7.5

2019年に発掘調査が始まった香南市東野土居遺跡で見つかった弥生時代遺物と遺構、その全貌をお見せします。

高知県立埋蔵文化財センター

〒783-0006 高知県香南市埋蔵1437-1 電話番号 ▶ 098-864-1429 受付時間 ▶ 9:30～17:00
TEL: 098-864-0271 FAX: 098-864-1429 休 日 ▶ 土曜日・祝日・長期休暇期間以外の日・曜日、年末年始(12/29～1/3)
URL: <http://www.kochi-museu.jp/> 入 館 料 ▶ 無料

ギャラリートーク 展示報告会
日 時: 2019年4月21日(日) 10:00～10:30 日 時: 2019年6月12日(日) 14:00～16:30
11:00～14:30 ※定て観覧料(申込不要)

※ゴールデンウィーク期間中(4/29～5/6)に、上記し、発掘や古代衣装体験が実施されます。

主催: 高知県立埋蔵文化財センター(合併制法人高知県文化財団)

協賛: 香南市教育委員会・高知県歴史・文化財センター・高知県観光・文化センター・高知県観光協会



写真3 速報展ポスター

2. 指定管理事業

時代-」をテーマに、四国各地の海に関係する遺跡に注目し、遺構や出土品から当時の人々の暮らしや生業と海との関わりを紹介した。高知会場は7月14日から9月23日まで開催し、関連行事としてギャラリートークを2回、展示報告会を1回行った。観覧者数は1,538人(昨年度1,294人)で対前年度比は約19%増であった。

展示報告会では、公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センターの調査第一係長多田仁氏を講師に招き、講演とともに貝刃を使った魚の解体実演を行った。

iii 企画展

「鎌倉時代の土佐」と題して、仁淀川流域の高岡地域の諸遺跡や四万十川支流の遺跡、香宗我部氏や大忍庄の行宗家に伝わる古文書、小村神社に伝わる木造菩薩面複製(国指定重要文化財)、吸江図絵などの美術工芸品を通した幅広い視点から鎌倉時代の豊かな社会像と思想文化を紹介した。10月13日から4月5日まで開催し、関連行事としてギャラリートークを4回、展示報告会を1回と記念講演会を行った。観覧者数は1,859人(昨年度1,550人)で対前年度比は約20%増であった。

記念講演会は高知市立自由民権記念館を会場に、同志社大学教授の鋤柄俊夫氏を講師に迎えて、「長宗我部氏が戦国の覇者として活躍する以前の土佐」と題した講演を行い、参加者は106人であった。

その他に、記念講演会にあわせて企画展の紹介記事を高知新聞に2回掲載した。

iv 移動展

本山町教育委員会との共催で本山町プラチナセンターふれあいホールを会場に「嶺北地域の遺跡展」と題して、松ノ木遺跡を中心に嶺北地域4町村の遺跡や発掘調査成果から地域の歴史を紹介した。12月1日から22日まで22日間(休館4日含)開催し、観覧者数は415人(昨年度472人)で前年度比約12%減であったが、昨年度の会場が安芸市立歴史民俗資料館で30日間(休館4日含)開催であったことを鑑みると、今回は地元教育委員会の協力を得て多くの観覧者を得ることができた。会場には、文化庁補助事業を活用して製作した地域の上空からの俯瞰画像に遺跡の所在場所を記したVR遺跡地図を見ることのできるモニターを設置し、観覧者からも好評を得た。関連行事としてギャラリートーク2回、ワークショップ(勾玉づくり)1回、元埋蔵文化財センター班長の出原恵三氏による「嶺北の黎明～遺跡が語る嶺北の歴史～」と題した講演会を開催した。

その他に、中央地区文化財保護連絡協議会の研修での展示解説の依頼があった。また、開催期間



写真4 巡回展ポスター



写真5 企画展ポスター

中に当センター公開講座の山城フィールドワークを本山城跡で行い、地元からも多くの参加者を得た。開催後には、本山町教育委員会から本山町プラチナセンターのロビーで展示を行いたいとの相談があり、地域の常設展示に協力することができたのは大きな成果であった。今後も開催地の教育委員会との連携を深める取り組みを続けていきたい。

②公開講座

今年度の公開展示の関連行事と公開講座の参加者総数は、2,399人（館外会場、現地集合フィールドワーク含む）で、対前年度比約7%増（昨年度2,237人）となっている。

定員に対しての充足率は約94%であり、座学が中心の講座では、参加者が増加しているとはいえ募集定員を下回っている講座もある。一方で現地を訪れるフィールドワーク形式の講座（城郭研究者の山城講座と城歩き、考古学から学ぶ史跡の見方）は、募集開始からすぐに定員に達するな

表8 公開講座参加者数



写真6 移動展ポスター

年度	合計	内訳								
		まいぶん講座	遺跡解説会	先生のための遺跡調査入門講座	親子考古学教室	古代ものづくり体験教室	遺跡見学会	考古学研究最前線解説会	考古学から学ぶ史跡の見方	城郭研究者の山城講座と城歩き
平成13年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平成14年度	48人	-	-	-	48人	-	-	-	-	-
平成15年度	109人	-	-	-	109人	-	-	-	-	-
平成16年度	175人	-	-	-	175人	-	-	-	-	-
平成17年度	120人	-	-	-	120人	-	-	-	-	-
平成18年度	431人	136人	-	-	270人	-	25人	-	-	-
平成19年度	444人	110人	138人	9人	146人	35人	6人	-	-	-
平成20年度	1,122人	83人	173人	10人	686人	148人	22人	-	-	-
平成21年度	1,187人	99人	106人	6人	870人	89人	17人	-	-	-
平成22年度	1,499人	80人	137人	7人	1,177人	67人	31人	-	-	-
平成23年度	1,453人	87人	99人	3人	1,129人	124人	11人	-	-	-
平成24年度	1,276人	69人	78人	15人	938人	157人	19人	-	-	-
平成25年度	1,436人	66人	101人	5人	1,132人	132人	-	-	-	-
平成26年度	1,453人	52人	69人	6人	1,203人	123人	-	-	-	-
平成27年度	1,648人	46人	111人	2人	1,395人	94人	-	-	-	-
平成28年度	1,607人	80人	99人	3人	1,286人	139人	-	-	-	-
平成29年度	1,631人	53人	66人	0人	1,151人	171人	-	50人	140人	-
平成30年度	1,718人	75人	88人	10人	955人	194人	-	44人	142人	210人
令和元年度	1,739人	36人	90人	5人	916人	301人	-	81人	115人	195人
合計	19,096人	1,072人	1,355人	81人	13,706人	1,774人	131人	175人	397人	405人

※平成25年度から発掘調査報告会は「遺跡解説会」、授業にいかせる考古学教室は「先生のための遺跡調査入門講座」に、平成30年度から考古学からわかる歴史教室は「まいぶん講座」に名称を変更。

2. 指定管理事業

表9 令和元年度公開講座1

講座名	開催日	参加者	講座名	参加者	講座名	参加者
発掘速報展(4月21日～7月5日)		1,190人	まいぶん講座		先生のための遺跡調査入門講座	
ギャラリートーク	4月21日(日)	30人	1	11月3日(日)	15人	1
展示報告会	5月12日(日)	28人	2	2月16日(日)	21人	2
巡回展(7月14日～9月23日)		1,538人	3	3月1日(日)	中止	考古学研究最前線解説会
ギャラリートーク	7月14日(日)	38人	遺跡解説会		1	9月8日(日)
展示報告会	9月1日(日)	38人	1	5月26日(日)	27人	2
企画展(10月13日～4月5日)		1,859人	2	6月9日(日)	37人	考古学から学ぶ史跡の見方
ギャラリートーク	10月13日(日)	15人	3	1月19日(日)	26人	1
展示報告会	10月27日(日)	29人	古代ものづくり体験教室		2	10月20日(日)
記念講演会	11月17日(日)	106人	1	6月16日(日)	34人	3
ギャラリートーク	1月26日(日)	27人	2	6月30日(日)	49人	城郭研究者の山城講座と城歩き
移動展(12月1日～12月22日)		415人	3	9月15日(日)	34人	1
ギャラリートーク	12月1日(日)	22人	4	10月14日(月・祝)	20人	2
講演会	12月8日(日)	24人	5	10月22日(火・祝)	37人	3
ワークショップ	12月8日(日)	12人	6	12月15日(日)	22人	4
			7	1月13日(月・祝)	47人	まいぶんセンターまつり
			8	2月2日(日)	35人	1
			9	2月23日(日)	23人	11月10日(日)
			10	3月8日(日)	中止	320人

ど人気の高さを表している。行事別の参加者数では、例年どおり親子考古学教室参加者が圧倒的に多く、年間の入館者数の約18%を占めている。夏休みの恒例行事として定着しリピーターも多く、親子と一緒に勾玉の製作や火起こしの体験を楽しむ姿や三世代で参加する姿もみられる最も人気のある講座である。

次に、参加者の年齢・性別についてみると、体験型の講座である古代ものづくり体験教室では40歳代以上の女性が大半を占めリピーターが多かったが、新たに家族連れでの参加が増える傾向にあり、小学校低学年や就学前の児童の参加も増えている。体験前には講話を行い、古代の人たちの技術や知識、工夫を分かりやすく話すことで、楽しく体験するだけでなく、考古学への興味・関心を持つきっかけとしている。

一方、まいぶん講座や遺跡解説会など考古学の専門的要素の強い座学を中心とする講座では、50～70代の男性の参加者が中心であり、考古学に興味を持ちつつ、より深く歴史を学びたい方が参加している。

このように、講座によって年齢・性別にやや異なる傾向が窺えるものの、内容については参加者から好評を得ている。より幅広い参加者を得られるように体験型、座学ともにテーマや進め方に常に工夫を凝らしていかねばならない。

また、フィールドワークの実施にあたっては、現地での参加者駐車場の確保や安全面での配慮など課題もあるため、地域の教育委員会や史跡の活用や保護活動を行っている団体などとの連携を図りながら取り組んでいく必要がある。

表10 令和元年度遺跡解説会

開催日	講座内容	担当者
第1回(5月26日(日))	若宮ノ東遺跡	久家隆芳
第2回(6月9日(日))	高知城跡石垣改修	筒井三菜
第3回(1月19日(日))	高田遺跡	池澤俊幸

i 遺跡解説会

埋蔵文化財センターが近年実施した発掘調査で明らかになった遺跡の様子や地域の歴史などの調査成果について、写真や図を用いて分かりやすく解説するとともに、出土した遺物を実見してもらった。1回90分間の講座で、参加者総数は90人で開催1回当たりの参加者数でみると対前年度比は約2%増(昨年度3回88人)であった。次年度も、報告書が公刊された遺跡や発掘調査が行われた遺跡を紹介する予定である。

ii まいぶん講座

平成25～29年度にかけて開催した各時代の遺跡や遺物などを紹介する「考古学からわかる歴史教室」に代えて、昨年度から埋蔵文化財や遺跡の基礎知識と発掘調査の方法など初心者向けの内容として開催している。今年度は年3回の開催予定であったが、第3回が中止となったため2回の実施となり参加者総数は36人(昨年度75人)で対前年度比は約48%減であった。参加者数は定員を割っているが、参加者のアンケートから「分かりやすい」や「歴史に興味があった」などの感想がみられ新たな受講者層を広げる感触が得られた。今後も、より魅力のあるテーマを用意して参加者増につなげる必要がある。

表11 令和元年度まいぶん講座

開催日	講座内容	担当者
第1回(11月3日(日))	舟の考古学	坂本裕一
第2回(2月16日(日))	勾玉についての話	小島義雄
第3回(3月1日(日)) (新型コロナウイルス感染拡大防止対策で中止)	古代の集落について	江間盛男

iii 先生のための遺跡調査入門講座

学校現場の先生に考古学に関心を持ってもらい、埋蔵文化財センターとの連携を深めるとともに、授業に活かせる知識の習得や体験をしてもらうために開催している。内容は高知県の遺跡や埋蔵文化財行政の概説、発掘体験、整理作業体験、館内見学及び展示遺物解説である。



写真7 先生のための遺跡調査入門講座(発掘体験)

県教育センターが案内している教員研修一覧に掲載してもらうとともに、講座の周知のために6月に県内各校に案内文書を送付して募集を行った。今年度は参加しやすい日程とするため、8月6～9日の内参加者の希望日を調整して開催日を決定することとした結果、6人の申込みがあり希望日を調整して2人ずつ実施する予定であったが、業務等の都合で1人欠席となったため、再度日程調整をして実施した。

iv 古代ものづくり体験教室

平成24年度からは「勾玉づくり」「ガラス玉づくり」「銅鏡づくり」に「土器づくり(土器焼き)」を加えた4つのメニューでスタートし、平成27年度には「琥珀勾玉づくり」及び「編布づくり」と新しいメニューを加えてきた。



写真8 古代ものづくり体験教室(ガラス勾玉づくり)

今年度は「ガラス玉づくり」に代えて鋳型でガ

2. 指定管理事業

ラスを溶かして作る「ガラス勾玉づくり」を新たに加えた全6メニューとした。合わせてメニュー毎の定員の見直しを行い、銅鏡づくりと土器づくりを10人から20人、琥珀勾玉づくりを10人から30人に増やした。全19回の開催予定であったが、「土器焼き」が中止となったため、全18回の実施である。参加者総数は301人(昨年度194人)、対前年度比は約55%増と大幅に増え各回の定員をほぼ満たしている。リピーターが多い傾向がみられるが、近年は家族での参加も増えており、低学年や就学前の児童の参加も得られている。今後とも魅力的なメニュー開発や幅広い層に届く広報を続けていきたい。

v 親子考古学教室

公開講座の中で最も人気のある講座で、「勾玉づくり」と「火起こし」をセットにした親子による体験型講座である。県内の小学生全員に案内チラシを配布し、募集を行っている。

今年度も埋蔵文化財センターと館外会場として宿毛市・四万十市・四万十町・須崎市・安芸市・室戸市・本山町で1日に午前と午後の2回ずつ合計34回の開催予定であったが、台風により8月15日が中止になったため実施は32回である。参加者数は大人393人、子供523人、総計916人であった。各回の定員30人は埋蔵文化財センター会場では満たしているが館外会場では定員に満たない場所があり、開催1回当たりの参加者数で見ると対前年度比は約4%減(昨年度30回955人)であった。館外会場については、埋文センターから遠く来館しにくい地域への重要な広報活動として位置付けているため、開催地の広報紙等の活用を積極的に行い参加者増につなげていきたい。

vi まいぶんセンターまつり

平成27年度から新たな取り組みとして始めた「まいぶんセンターまつり」は5回目の開催となり11月10日に実施した。内容は、古代ものづくり体験教室で実施している「勾玉づくり」、「編布づくり」、



写真9 親子考古学教室チラシ

表12 令和元年度公開講座2(親子考古学教室)

開催日	午前の部		午後の部		計	開催日	午前の部		午後の部		計
	大人	子供	大人	子供			大人	子供	大人	子供	
7月21日(日)	16人	20人	20人	10人	66人	※8月12日(月)	18人	23人	8人	13人	62人
7月25日(木)	17人	23人	16人	18人	74人	8月15日(木)	中止	中止	中止	中止	0人
※7月27日(土)	1人	1人	1人	1人	4人	※8月17日(土)	13人	15人	11人	18人	57人
7月28日(日)	17人	19人	15人	21人	72人	8月18日(日)	13人	15人	14人	16人	58人
※7月31日(水)	11人	15人	1人	1人	28人	8月21日(水)	12人	24人	13人	22人	71人
8月2日(金)	18人	22人	15人	21人	76人	8月23日(金)	13人	16人	13人	20人	62人
※8月4日(日)	8人	12人	5人	6人	31人	※8月25日(日)	15人	17人	17人	21人	70人
8月8日(木)	13人	20人	15人	20人	68人	8月27日(火)	11人	18人	12人	20人	61人
※8月11日(日)	10人	17人	11人	18人	56人	合計	206人	277人	187人	246人	916人

※は館外で実施

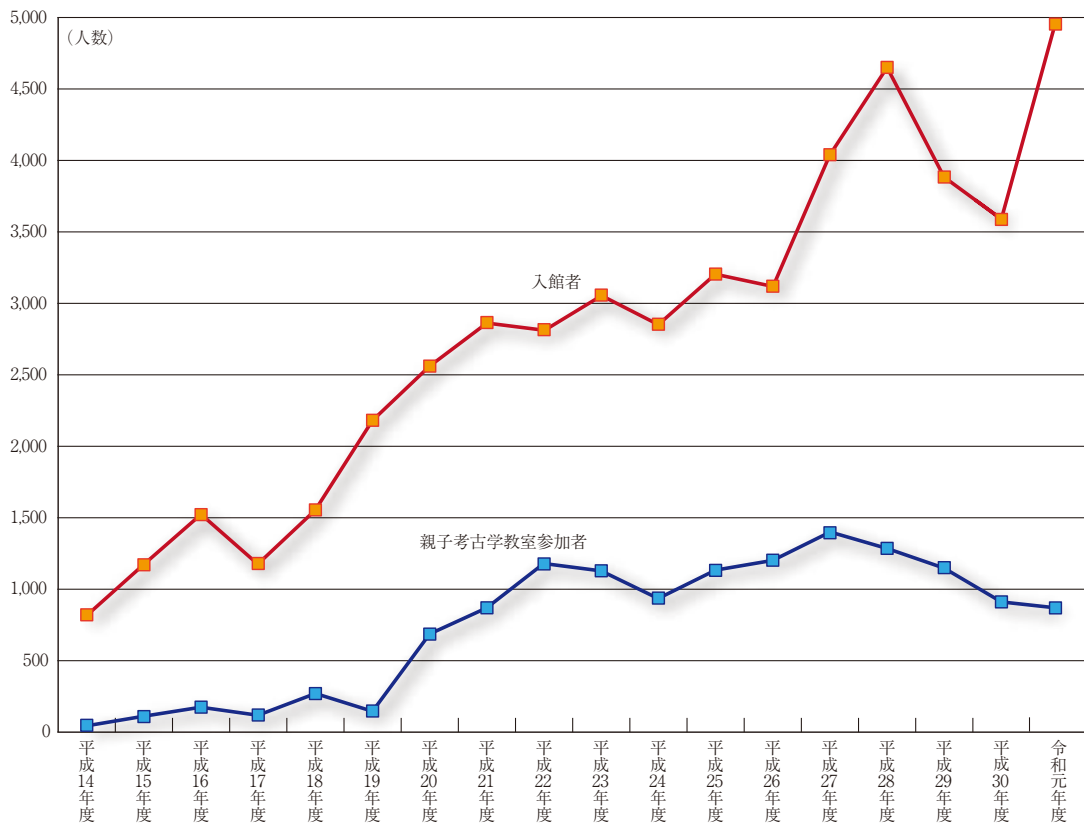


図8 入館者に占める親子考古学教室参加者の割合

「銅鏡づくり」、「土器づくり」及び「火起こし」を一堂に開催して体験してもらうとともに、出土遺物の整理作業の実際と収蔵遺物を見学してもらう「バックヤードツアー」及び「展示解説」を行い、地域の方々に埋蔵文化財センターの存在と業務内容を知ってもらう機会としている。学校へのポスター・チラシなどの広報は、昨年度に引き続きセンターの所在する南国市と近隣の香美市、香南市、高知市東部の小学校に行った。

参加者数は320人(昨年度301人)で対前年度比約6%増であった。各体験コーナーの各回はほぼ定員を満ち、希望する体験をできない方も出るほどの参加者の来場があったが、近接したクリニックの広い駐車場の利用承諾を得られたこともあり、来館者の駐車場に不足が生じることはなかった。

また、今年度から定員や開催時間帯で希望する回に参加できなかった方の受け皿として、「火起こし体験」とともに「弓矢体験」、「ペーパークラフトづくり」などを時間や定員に関係なく自由に参加できるメニュー



写真10 まいぶんセンターまつりポスター

2. 指定管理事業

として新たに加え好評であった。来館者に楽しい一日を過ごしていただき、地域の歴史や遺跡に興味を持っていただくためにも開催方法やメニューの工夫をしながら今後とも開催を続けていきたい。

vii 考古学研究最前線解説会

平成29年度から新たな取り組みとして始めた解説会で、埋蔵文化財センター職員が積み重ねてきた考古学の研究成果を踏まえ、新しい知見や最新情報を解説する専門性の高い講座として開催している。

今年度は「古代人の食べ物を考える－縄文時代からの植物利用と農耕－」と「土佐の中世土器」をテーマに2回実施し81人の参加があった。この講座では、考古学の専門的な内容を維持しつつ、歴史や現代社会の事象と絡めながら参加者に分かりやすい資料の提示や話し方を行うことが重要と思われる。講師を務める調査員にとっても自分の研究成果を発表し広めていける場と捉え、講義を行うことで、資質の向上に繋がることが期待できる。

viii 考古学から学ぶ史跡の見方

平成29年度からの新たな取り組みとして開催している講座で、埋蔵文化財センター職員や外部講師が引率して県内外の史跡になっている遺跡を訪れ、立地や周辺の風景にも触れてもらい地域の歴史の中に身を置くことで、文化財に対する興味や関心を高めて、地域の史跡・遺跡の保護や活用に目を向けてもらう企画である。

今年度の第1回は、室町時代から戦国時代に阿波の中心地として栄え、現在は国史跡として整備されている勝瑞城館跡（徳島県藍住町）、第2回は古代土佐の政治と文化の中心地であった県史跡の土佐国衙跡と国史跡の比江廃寺跡、寺域の確認調査が現在行われている国史跡の土佐国分寺跡、第3回は高知県の三大古墳にあげられる県史跡の明見彦山古墳を訪れた。それぞれに発掘調査の考古学的成果を紹介しながら地域の歴史での位置付けなどの説明を行い、いずれの回も好評であった。各回定員40人で開催し、合計115人の参加を得られた。

ix 城郭研究者の山城講座と城歩き

昨年度から「所長の山城講座と城歩き」として始めた講座で、近年関心の高まっている山城の発



写真11 まいぶんセンターまつり(会場)



写真12 考古学研究最前線解説会(講座)



写真13 考古学から学ぶ史跡の見方(勝瑞城館跡)

掘調査による研究成果や魅力について講義2回とフィールドワーク2回を行っている。講師を当センター所長以外の城郭研究者にも広げる目的で、今年度は講座名を変更した。

講義では、城郭について基礎知識とともに近年の考古学の話や地域の歴史にも触れながら分かりやすく解説を行った。フィールドワークでは本山城跡と久礼田城跡を訪れ、現地で遺構を見ながら解説を行った。また、フィールドワークには地元の史談会などの参加も得られ、定員の160人を大きく超えた195人の参加者数となり、地域の教育委員会や歴史文化活動との連携や交流をすることができた。



写真14 城郭研究者の山城講座と城歩き(久礼田城跡)

③出前考古学教室

i 概要

実施以来22年目を迎え、広報普及事業の中核となっている。今年度の実施回数は73回(小学校66, 高等学校1, 特別支援学校1, 学年行事等4, 博物館1)で、1校で2回開催した学校もある。参加者総数は2,427人である。これまでの実績を合計すると、実施回数は1,201回、実施校は延べ1,246校、参加児童生徒数は51,356人を数える。当初の実施対象は学校のみであったが、近年は学校の授業(出前A)以外にも学年行事や学童クラブなどの学校関係行事等(出前B)や公民館や博物館等の学校以外の団体等(出前C)からの依頼も受けており、便宜上出前A・B・C(表16)としている。前年度1月上旬に各学校へ文書を送付し、実施日を前期(5~8月)と後期(9~2月)に分けて募集を行い、希望日を調整して実施日を決定する。申込校の希望や活動時間など内容についての打合せを行い実施している。内容は、遺跡や地域の歴史に関する考古学授業、出土遺物を展示して説明する展示解説、火起こしや勾玉づくりの体験学習である。

ii 内容

a. 考古学授業「地域の遺跡」

授業は小学校6年生の歴史学習の一環としての実施が中心である。中学校や高校などには、希望に沿った内容で行っている。日本の歴史や代表的な遺跡の学習はしているが、地域の遺跡について知りたいという希望が多いため、各校ごとに遺跡地図を作成し、身近な遺跡や地域の歴史について紹介している。

また、遺物や遺構などの用語や発掘調査や整理作業の進め方などについての簡単な解説も含めてパワーポイントを使って約30分間で行っている。

b. 遺物展示解説

本県の遺跡から出土した遺物から、旧石器・縄文・弥生・古墳・古代・中世の各時代から抽

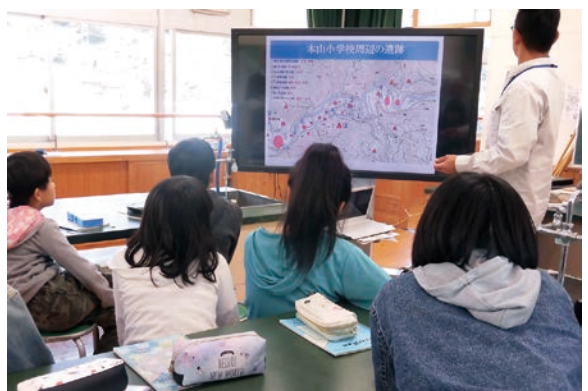


写真15 考古学授業

2. 指定管理事業

表13 平成10～令和元年度出前考古学教室実績一覧

No.	年 度	実施対象地域	対象学年	実施回数	実施校数	実施期間	授業児童生徒数	参加児童生徒数
1	平成10年度	南国市	小・中学校	8回	8校	前期/試行	450人	450人
2	平成11年度	〃	〃	10回	10校	前期	505人	1,428人
3	平成12年度	全県下	小学校	28回	40校	〃	1,352人	3,789人
4	平成13年度	〃	〃	26回	27校	〃	1,060人	2,233人
5	平成14年度	〃	〃	27回	31校	〃	944人	2,541人
6	平成15年度	〃	〃	29回	31校	〃	1,232人	2,121人
7	平成16年度	〃	〃	31回	41校	〃	1,083人	1,083人
8	平成17年度	〃	〃	33回	34校	前・後期	1,049人	1,357人
9	平成18年度	〃	〃	51回	60校	〃	1,772人	1,703人
10	平成19年度	〃	小・中学校	51回	69校	〃	2,058人	2,467人
11	平成20年度	〃	〃	52回	64校	〃	1,688人	2,088人
12	平成21年度	〃	小・中・高等学校	48回	53校	〃	1,369人	1,438人
13	平成22年度	〃	〃	65回	66校	〃	2,470人	2,571人
14	平成23年度	〃	〃	61回	64校	〃	2,045人	2,223人
15	平成24年度	〃	〃	79回	71校	〃	2,710人	2,937人
16	平成25年度	〃	〃	87回	79校	〃	3,184人	3,242人
17	平成26年度	〃	〃	97回	94校	〃	3,660人	3,660人
18	平成27年度	〃	〃	92回	85校	〃	3,052人	3,052人
19	平成28年度	〃	〃	101回	97校	〃	3,375人	3,375人
20	平成29年度	〃	〃	75回	76校	〃	2,569人	2,569人
21	平成30年度	〃	〃	77回	79校	〃	2,602人	2,602人
22	令和元年度	〃	〃	73回	67校	〃	2,423人	2,427人
合計				1,201回	1,246校	-	42,652人	51,356人

出して展示を行い、それぞれの時代の特徴などを分かりやすく解説するとともに、土器や石器に触れる時間を設けている。本物を見て触れる体験から古代の人々の生活に興味や関心を高め、現代の生活との違いや関係についても考えるきっかけとなるように説明に工夫をしている。

c. 体験学習

火起こしは、簡単に火を着けることのできる便利な道具のある生活に慣れている児童生徒に、道具のなかった時代の人たちがどのようにして火を起こしたのかを体験してもらう活動である。火きり板とマイギリを使って火を起こし、成功したらキリモミ式にもチャレンジする。初めて体験する火起こしは、コツをつかむまでは体力、根気も必要で簡単にはできないが、何度もチャレンジすることで古代の人々の苦労を体感することができる。また、一度着いた火をできるだけ消さないように工夫をしていたことも説明し、先人の知恵を知る機会となっている。

勾玉づくりは、材料として柔らかく簡単に加工のできる滑石を使用している。



写真16 展示解説

まず、パワーポイントを用いて、勾玉について形の意味や使われ方などの基本知識の解説を行い、高知県の出土勾玉についても紹介した後、作り方の説明を行っている。製作作業は、石に勾玉の絵を描き、余白をノコギリで切りサンドペーパーで削って成形し、仕上げ磨きまでを約60分間で行う。出来上がった勾玉は一人一人の形や色が違い、世界で一つだけのものが作れる喜びは毎年変わらず人気である。



写真17 火起こし

iii 本年度の成果と今後の取り組みについて

a. 実施回数や実施校について

これまでの取り組みの成果によって、毎年申込みのある学校や複式学年の学校では隔年で申込みがあるなど、小学校6年生の歴史学習の一部として定着している学校も増えている。実施傾向としては、小学校の歴史授業の進捗に合わせて考古学教室を希望する学校が多く、前期に申込みが集中している。後期は学校行事等の関係からか希望校が少ない状況は変わっていない。

児童数減少、教育課程の変更等により年間を通じて実施回数は減少傾向にある。また、県中部や西部に比べると東部地域からの申込みが少ない。本県は人口減少傾向にあり、特に郡部では学校数も統廃合により減ってきている状況にあるが、地域の歴史学習として活用してもらえるよう取り組みを続けていく。

また、中学・高校など幅広い学校関係とともに地域の社会教育活動や団体活動でも利用してもらえるように広報活動にも積極的に取り組んでいきたい。

b. 内容について

授業は視聴覚機器を使い、図や写真などを提示して分かりやすい教材作成を心がけており、遺跡や地域の歴史に興味を持ったという感想が多く得られている。

展示解説では、遺物の解説だけでなく古代人が実際に使った土器を見て触れることで、形や手触り、重さなどを実感できる体験は貴重である。火起こし体験は、火を着けることができた時の驚きや喜びも忘れることができないものとなっているようである。勾玉づくりは根気よく取り組まねばならないが、努力が形となったときに、古代の人々の思いをも共有できるのではないかと思う。さらに時間的余裕があれば、充実・展開できる可能性を秘めた活動である。

c. 学校側の受入れ態勢について

前年度の3月下旬までに実施日を決定し、4月から内容の打ち合わせを行った。体験学習のみを希望する場合にも、可能な限り遺跡の学習や解説を組み込んでもらい、活動の趣旨を達成できるよう努めた。当日は、必要な機器類や道具等の準備について、学校や担当教員の協力を得ることができ円滑に授業を実施することができた。

d. 火起こし道具について

舞錐式(マイギリ)と錐揉み式(キリモミ)の道具を使用している。マイギリは消耗と破損が多く、毎回点検や修理をして使用している。安定してより良い道具を調達していくことが課題である。先端の芯棒は、市販の檜丸棒を使用していたが、販売されなくなったために業者に製作を依頼して調

2. 指定管理事業

表14 令和元年度出前考古学教室前期実績一覧(授業実施数)

No.	実施日	市町村名	学校・施設名	学年	クラス数	人数	備考
1	5/7 (火)	本山町	本山小学校	6	1	9人	
2	〃	高知市	十津小学校	6	2	53人	
3	5/8 (水)	高知市	潮見台小学校	6	1	45人	
4	5/9 (木)	須崎市	吾桑小学校	6	1	10人	
5	〃	須崎市	須崎南小学校	6	1	6人	
6	5/10 (金)	高知市	一ッ橋小学校	6	2	56人	
7	〃	安芸市	伊尾木小学校	6	1	4人	
8	5/13 (月)	高知市	潮江東小学校	6	2	50人	
9	5/14 (火)	南国市	大湊小学校	6	1	9人	
10	〃	いの町	伊野小学校	6	2	74人	
11	5/15 (水)	津野町	葉山小学校	6	1	16人	
12	5/16 (木)	奈半利町	加領郷小学校	6	1	2人	
13	〃	北川村	北川小学校	6	1	9人	
14	5/17 (金)	南国市	白木谷小学校	5・6	1	9人	
15	〃	いの町	伊野南小学校	6	1	31人	
16	5/20 (月)	宿毛市	咸陽小学校	6	1	27人	
17	5/21 (火)	黒潮町	三浦小学校	6	1	8人	
18	〃	四万十市	西土佐小学校	6	1	18人	
19	5/23 (水)	須崎市	上分小学校	6	1	10人	
20	〃	日高村佐川町組合立	加茂小学校	6	1	17人	
21	5/27 (月)	高知市	第四小学校	6	2	59人	
22	5/28 (火)	大豊町	おおとよ小学校	6	1	8人	
23	〃	高知市	三里小学校	6	2	43人	
24	5/29 (水)	津野町	中央小学校	6	1	21人	
25	5/30 (木)	高知市	鴨田小学校	6	4	121人	
26	5/31 (金)	高知市	旭東小学校	6	2	74人	
27	〃	土佐市	波介小学校	6	1	15人	
28	6/3 (月)	土佐市	宇佐小学校	6	1	35人	
29	〃	高知市	小高坂小学校	6	2	54人	
30	6/4 (火)	高知市	昭和小学校	6	3	105人	
31	6/5 (水)	室戸市	吉良川小学校	6	1	12人	
32	6/6 (木)	高知市	五台山小学校	6	1	16人	
33	〃	四万十市	川登小学校	4～6	1	5人	
34	6/7 (金)	高知市	秦小学校	6	3	122人	
35	6/10 (月)	土佐市	北原小学校	6	1	8人	
36	〃	南国市	長岡小学校	6	2	45人	
37	6/11 (火)	土佐市	高岡第二小学校	6	1	19人	
38	6/12 (水)	土佐市	戸波小学校	6	1	13人	
39	〃	高知市	横浜新町小学校	6	3	84人	
40	6/13 (木)	三原村	三原小学校	5・6	1	11人	
41	〃	土佐清水市	清水小学校	6	2	56人	
42	6/14 (金)	土佐清水市	三崎小学校	5・6	1	12人	
43	6/17 (月)	黒潮町	田ノ口小学校	6	1	11人	
44	6/18 (火)	仁淀川町	池川小学校	6	2	8人	
45	〃	いの町	川内小学校	6	1	11人	
46	6/19 (水)	香美市	山田小学校	6	3	90人	
47	6/20 (木)	土佐清水市	下ノ加江小学校	5・6	1	14人	
48	6/24 (月)	大月町	大月小学校	6	1	29人	
49	6/25 (火)	黒潮町	入野小学校	6	1	12人	
50	6/27 (水)	高知市	旭小学校	6	2	45人	
51	6/28 (金)	四万十町	田野々小学校	6	1	10人	
52	7/3 (水)	越知町	越知小学校	6	1	37人	
53	7/12 (金)	四万十市	中村南小学校	6	1	39人	
54	7/16 (火)	佐川町	尾川小学校	5・6	1	5人	
55	8/6 (火)	芸西村	芸西小学校	4～6	-	6人	B
56	8/24 (土)	越知町	横倉山自然の森博物館	-	-	8人	C
合計(前期分)						1,726人	

表15 令和元年度出前考古学教室後期実績一覧(授業実施数)

No.	実施日	市町村名	学校・施設名	学年	クラス数	人数	備考
1	9/3(火)	黒潮町	伊与喜小学校	5・6	1	5人	
2	9/6(金)	四万十市	東中筋小学校	6	1	8人	
3	9/29(日)	香美市	大宮小学校	3	1	51人	B
4	10/8(火)	高知市	長浜小学校	6	2	58人	
5	10/10(木)	高知市	はりまや橋小学校	6	2	70人	
6	10/29(火)	室戸市	元小学校	5・6	1	6人	
7	11/1(金)	高知市	高知県立北高等学校	1～4	1	20人	
8	11/11(月)	日高村	日下小学校	6	1	24人	
9	11/18(月)	四万十市	東中筋小学校	6	1	8人	
10	11/19(火)	宿毛市	大島小学校	6	1	14人	
11	〃	四万十市	大用小学校	6	1	10人	
12	11/21(木)	須崎市	浦ノ内小学校	6	1	16人	
13	11/22(金)	高知市	一宮東小学校	5	2	118人	B
14	12/3(火)	高知市	春野東小学校	6	3	102人	
15	12/16(月)	香美市	舟入小学校	6	1	38人	B
16	1/22(水)	日高村	日高特別支援学校	中学部2・3	2	16人	
17	1/31(金)	南国市	大篠小学校	6	4	137人	
合計(後期分)						701人	

表16 令和元年度出前考古学教室実績一覧

	A			B		C		合計	
	回数	実施校	参加者数	回数	参加者数	回数	参加者数	回数	参加者数
前期	54回	54	1,712人	1回	6人	1回	8人	56回	1,726人
後期	14回	14	494人	3回	207人	0回	0人	17回	701人
合計	68回	68	2,206人	4回	213人	1回	8人	73回	2,427人

達している。一方、キリモミには調達のしやすい竹やウツギを利用しているが、より適した素材の検討は続けて行く。火種受けには脱脂綿を使用しているが、雨天など湿度の高い日は火種からの着火に苦勞する場面がみられる。火きり板は消耗品であり大量に使用するため、杉板で業者に製作を依頼し調達している。今後どのような道具を加工、製作、調達していくのか検討中であり、安定的に調達できる手だてが必要である。

e. スタッフについて

2名の担当職員を中心として行っているが、児童数の多い大規模校では他の企画調整班職員や整理作業員の協力を得るなどして弾力的に対応した。特に前期は過密日程となるため、企画調整班職員全員で担当を交代しながら実施している。

f. むすび

今年度も県下全域の多くの小学校で実施することができ、県立高校1校と特別支援学校1校でも開催することができた。参加者総数は昨年度より微減したが、多くの児童生徒と触れ合うことができた。実施後のアンケートには、遺跡や遺物、体験学習を通して、地域の歴史に興味を持ったり、昔の人の知恵や技術に対して驚きや感心をする感想が多くみられたことは、出前考古学教室の成果としてあげることができる。

また、児童生徒や教職員だけでなく、学年行事やPTA活動での出前考古学教室の実施を通して、保護者にも地域の歴史や埋蔵文化財に関心を持ってもらえる機会となっており、今後も重要な埋蔵文化財の広報普及活動として取り組んでいく。

2. 指定管理事業

④情報公開

埋蔵文化財及び発掘調査に関する情報公開事業として、ホームページの管理更新を行った。ホームページでは、県内埋蔵文化財に関する基礎情報として、各時代の代表的な遺跡の紹介や発掘調査情報の掲載、開催している展示や講座等の情報を提供するとともに、発掘調査報告書及び展示パンフレット、年間行事カレンダーなどを電子データ(PDF)として公開し、インターネットを介して閲覧・ダウンロードを可能とすることで埋蔵文化財資料の公開活用に資している。

広報活動については、これまで行ってきた学校関係をはじめとする各種団体への働きかけとともに、年間行事カレンダーや各公開展示、公開講座の案内をホームページ、ダイレクトメール等で行っている。一方、新聞やテレビ放送など報道機関での記事掲載や告知放送、県広報枠でのラジオ告知、県及び市町村広報誌や民間情報誌への掲載なども行っている。さらに、展示や講座の開催情報をより多くの方に知ってもらうため、今年度からポスター・チラシ等を観光関係施設へも配布したことにより、埋蔵文化財センターへの関心や知名度は着実に向上してきているものと考えられる。

i ホームページ

ホームページに関しては、サイト訪問者に分かりやすく使いやすいWebサイトを目指して、平成29年度にコンテンツマネジメントシステム(CMS)の導入を行い、職員によるコンテンツの作成・更新の容易性と情報提供機能を充実するとともに、公開講座へのWeb申込みやスマートフォンやタブレット端末による閲覧などに対応したりリニューアルを実施し、運用と改善を行っている。

また、公開講座の参加申込みにはホームページからのWeb申込みを可能とすることで利便性を高めるとともに、Facebookのアカウントを取得してSNSを活用した情報発信も行っている。

今年度は、申込みフォームなどの利便性の改善や、ホームページのトップバナー等を子供たちがより親しみやすいデザインへの改良などを行った。今後も埋蔵文化財センターをより県民に広くアピールするために、魅力的なコンテンツ配信やホームページ作成に努める必要がある。

ii Web 公開データベース

平成16年度から始めたWeb公開データベースのうち、遺跡台帳のデータベースは高知県教育委員会文化財課の「高知県文化財地図情報システム」に引き継がれ、遺跡情報と高知県埋蔵文化財センターが公刊した発掘調査報告書、年報、現地説明会資料等の印刷物はPDF化して公開している。

iii 取材対応

従来からマスコミへの告知情報の発信や取材には積極的に対応している。

今年度は、各マスコミや広報誌等への情報提供に加えて、RKC高知放送の地域情報番組で約20

表17 令和元年度団体施設見学一覧

No.	団体名	見学日	生徒等	引率者	見学者	内容
1	弥生文化研究会	令和元年5月15日	24人	-	24人	展示見学, 館内見学
2	大籾小学校3年生	令和元年5月22・24日	111人	9人	120人	展示見学, 館内見学
3	放課後等デイサービスすきっぷ	令和元年8月14日	8人	7人	15人	古代ものづくり体験
4	初月小学校5年生	令和元年9月26日	123人	8人	131人	館内見学, 遺跡学習, 体験学習
5	伊野小学校6年生	令和元年10月4日	73人	6人	79人	館内見学, 体験学習
6	香美市教育支援センター	令和2年1月23日	2人	3人	5人	館内見学, 体験学習
合計			341人	33人	374人	

分間の生中継取材の依頼があり、展示や整理作業の様子を紹介した。多くの方にテレビ放送で埋蔵文化財センターの業務を見てもらえる貴重な機会となった。

iv 刊行物

今年度は、埋蔵文化財センターの活動記録として平成30年度の業務実施内容をまとめた『年報第28号』を公刊した。

⑤ 団体見学及び研修等の受け入れ

施設や展示の見学、体験学習（勾玉づくりや火起こしなど）を行う団体見学は、小学校を中心に各種団体、グループなどの利用があり、今年度は、6団体374人（昨年度5団体203人）を受け入れた。

また、近年は中学生の職場体験を受け入れており、今年度は4校7人を受け入れた。2日間又は3日間と短い期間ではあるが、業務実習として発掘現場での掘削作業と遺構の測量作図作業を行い、整理作業では土器の洗浄・注記・接合・実測及び遺跡の概要調査として校区の遺跡の位置図と一覧表の作成を行った。



写真18 団体見学

発掘調査の現地説明会は、若宮ノ東遺跡で6月23日（参加者40人）と11月17日（参加者40人）、新堀川護岸で11月3日（参加者50人）と令和2年1月12日（参加者47人）に開催し177人の見学者があった。毎回多くの参加者を得ていることから遺跡や地域の歴史への関心の高さをうかがうことができた。

⑥ 県保有文化財（遺物・写真）の貸出等

文化財保護推進のために活用を図ることを基本方針として、博物館等での展示や出版物への掲載、研究目的の資料調査などについて、出土遺物や写真、図書資料などの貸出しを行っている。

また、学校の授業等で活用できる土器や石器の貸出セットも用意している。

今年度の出土文化財および物品貸出に関する申請は31件、写真掲載許可等の申請が12件であった。主な貸出先は、九州国立博物館、大阪歴史博物館・岐阜市歴史博物館、高知県立高知城歴史博物館、高知県立歴史民俗資料館、四万十市教育委員会、愛媛県松野町教育委員会、(公財)北海道埋蔵文化財センター、(公財)愛媛県埋蔵文化財センター、弘前大学、首都大学東京、京都大学、愛媛大学、高知大学、明治大学などである。

⑦ その他の取り組み

本館ロビーには、DVD視聴コーナー、書籍コーナー、高知県遺跡地図、立体土器パズル、古代衣装体験などを設置し、大人だけでなく子供も楽しみながら遺跡や考古学について学べるスペースとしており、展示期間以外の来館者の利用にも対応している。希望者には年間数回に分けて行事案内ハガキを送付しており、送付先数は年々増加し200人を越えている。

また、公開展示の観覧や公開講座の受講を対象としたスタンプラリーは、毎年楽しみにしている方もみられるようになり、従来のリピーターに加えて新しいリピーターの獲得につながっている。

⑧ 各種イベント等への参加・協力

民間商業施設を会場に財団本部が主催する「bunkazaidan こどもクラブ」に参加し、「まいぶん出前考古学教室 in イオンモール高知」を行った。銅鏡づくり、立体土器パズル、各時代の出土遺物展

2. 指定管理事業

表18 令和元年度物品・遺物(県有物)貸出一覧

No.	貸出先	貸出物品・遺物	貸出期間	使用目的
1	高知県立高知城歴史博物館	比江廃寺跡出土軒丸瓦、天神溝田遺跡出土和鏡などを含む計42点	H31.4.1～R2.3.31	常設展展示
2	高知県立歴史民俗資料館	奥谷南遺跡出土石器、田村遺跡群出土壺などを含む計376点	H31.4.1～R2.3.31	常設展展示(継続)
3	明治大学 吉村武彦 名誉教授	野田廃寺出土軒丸瓦、東野土居遺跡出土軒丸瓦などを含む計21点	R1.5.17	資料調査(科学研究費補助金研究)
4	九州国立博物館	田村遺跡群出土壺を含む計3点	R1.8.20	特別展展示
5	愛媛県松野町教育委員会 高山剛	扇城跡出土土師質土器を含む計15点	R1.6.25	資料調査(報告書作成)
6	京都大学大学院文学研究科 富井眞 助教	田村遺跡群出土壺、高田遺跡出土壺などを含む計25点	R1.7.17・18	資料調査(科学研究費補助金研究)
7	南国市教育委員会 池田研	具同中山遺跡群出土巡方を含む計2点	R1.7.19	資料調査(報告書作成)
8	愛媛大学法文学部 幸泉満夫 准教授	船戸遺跡出土土器・石器などを含む計314点	R1.8.22	資料調査(愛媛大学研究費研究)
9	高知大学人文社会科学部 宮里修 准教授	田村遺跡群出土土器、西山城跡出土土器などを含む計118点	R1.9.3	講義実習使用
10	(公財)愛媛県埋蔵文化財センター 中野良一	田村遺跡群出土土器を含む計129点	R1.9.6	資料調査(調査研究)
11	大阪歴史博物館・岐阜市歴史博物館ほか	岡豊城跡出土紀年銘瓦1点	R2.4.25～R3.11.30	特別展展示
12	高知大学人文社会科学部 藤田京祐	居徳遺跡群出土人骨を含む計25点	R1.10.16	資料調査(卒業論文作成)
13	弘前大学人文社会科学部 関根達人 教授	居徳遺跡群出土土器を含む計64点	R1.11.24・25	資料調査(科学研究費補助金研究)
14	首都大学東京 出穂雅美 准教授	奥谷南遺跡出土石器を含む計コンテナ40箱	R1.11.25	資料調査(科学研究費補助金研究)
15	弘前大学人文社会科学部 関根達人 教授	居徳遺跡群出土土器1点	R1.12.9	資料調査(科学研究費補助金研究)
16	九州国立博物館 小澤佳憲	田村遺跡群出土壺を含む計21点	R1.12.11	資料調査(常設展展示用)
17	(公財)愛媛県埋蔵文化財センター 多田仁	久木ノ城跡出土石器、古津賀遺跡出土石器などを含む計7点	R1.11.18	資料調査(調査研究)
18	高知大学人文社会科学部 藤田京祐	居徳遺跡群4D区の図面資料	R1.10.16	資料調査(卒業論文作成)
19	高知大学人文社会科学部 宮地麻未	居徳遺跡群出土子持勾玉を含む計3点	R1.12.13	資料調査(卒業論文作成)
20	四万十市教育委員会	坂本遺跡出土陶磁器を含む計10点	R1.12.20～R2.4.7	特別展展示(四万十市郷土資料館)
21	桐山秀穂	田村遺跡群出土石臼、岡豊城跡出土茶臼などを含む計39点	R2.1.31	資料調査(調査研究)
22	四万十市教育委員会	具同中山遺跡群出土青磁碗1点	H31.4.1～R2.4.7	常設展展示(四万十市郷土資料館)
23	愛媛大学法文学部 幸泉満夫 准教授	柳田遺跡出土土器、船戸遺跡出土土器などを含む計130点	R2.3.12	資料調査(科学研究費補助金研究)
24	出原恵三	田村遺跡群出土土器を含む計21点	R2.2.13	資料調査(市史編纂のための調査研究)
25	高知県立高知城歴史博物館	岡豊城跡出土土器・瓦、浦戸城跡出土瓦などを含む計20点	R2.4.1～R3.3.31	常設展展示
26	(公財)北海道埋蔵文化財センター 長沼孝	居徳遺跡群出土土器を含む計コンテナ9箱	R2.3.6(※未実施)	資料調査(調査研究)
27	高知県立歴史民俗資料館	奥谷南遺跡出土石器、田村遺跡群出土壺などを含む計375点	R2.4.1～R3.3.31	常設展展示(継続)
28	九州国立博物館	田村遺跡群出土壺・甕の計2点	R2.4.22～R3.3.31	常設展展示
29	愛媛大学法文学部 幸泉満夫 准教授	居徳遺跡群出土土器を含む計11点	R2.3.12	資料調査(科学研究費補助金研究)
30	出原恵三	田村遺跡群出土石器を含む計22点	R2.3.16	資料調査(市史編纂のための調査研究)
31	高知市立市民図書館	追手筋遺跡出土品を含む計10点	R2.4.1～R3.3.31	常設展示(資料展示室等)

※番号は申請順、事務手続きを令和元年度に実施したものを掲載している。

示、クイズラリー、古代衣装体験、埋文センターキャラクターのペーパークラフトづくり、DVD鑑賞、キャラクター着ぐるみとの触れ合いなど多くの活動を行った。家族連れや子供たちを中心に159人(昨年度69人)の参加があった。施設へ買い物に来た際の通りすがりに参加した方がほとんどであり、アンケートでは埋蔵文化財センターの存在を初めて知った方や、実物の土器などを初めて見た方が多かった。次年度の継続実施がすでに決まっている。



写真19 本館ロビー古代衣装体験

また、昨年度に引き続き南国市観光協会が企画した「長宗我部 RALLY 9」のスタンプラリー対象施設として参加し、期間中(12/20～2/24)に139人の来館があった。

こうしたイベントへの参加・協力は、当センター及び各種事業に興味を持ち来館のきっかけになるとともに、地域の遺跡や歴史に関心を持ってもらう良い機会となっている。



写真20 イオンワークショップ(展示)

(3) 研修事業

研修事業としては、当センターで考古学関係分野の専門家を外部講師に招く職員専門研修を年1回行うとともに、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所が行う埋蔵文化財担当者研修ならびに全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会に参加した。各研修内容は以下のとおりである。

① 職員専門研修

調査員の資質向上を目的として開催している。今年度は「遺跡探査の方法と実際」というテーマで近年発掘調査に応用される事が多い地中レーダー探査について、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所遺跡・調査技術研究室長の金田明大氏を招聘し、講座と実技を調査中の若宮ノ東遺跡で行った。

② 埋蔵文化財担当者研修

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所が行う令和元年度文化財担当者専門研修「地質・堆積学基礎課程」に1名参加した。また、令和元年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会に2名が参加し、管理者部会と調査部会に分かれ、それぞれ、「働き方改革関連法案について」、「名勝庭園の考古学的調査」などについての研修を受



写真21 職員専門研修

2. 指定管理事業

けた。

その他、文化庁主催の「埋蔵文化財保護行政基礎講座」, 「文化財担当者専門研修」及び「埋蔵文化財担当職員等講習会」に1名が参加し、埋蔵文化財保護行政の推進と文化財を活かした個性豊かで魅力的な地域づくりの創造や、発掘調査方法の知識の向上を図った。

表19 令和元年度職員専門研修

No.	研修内容	開催日	講師名	所属・役職
1	「遺跡探査の方法と実際」	令和元年9月19・20日	金田明大	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所

表20 令和元年度埋蔵文化財担当者研修

No.	研修名	研修場所	研修期間	研修者
1	令和元年度文化財担当者専門研修「地質・堆積学基礎課程」	奈良県奈良市	令和元年9月17～20日	下木千佳
2	令和元年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会	京都府京都市	令和元年12月12・13日	吉成承三 坂本裕一

(4) 講師等職員の派遣

県内外の施設及び団体からの講師や活動指導者などの依頼に対し、埋蔵文化財広報普及の観点からできる限り対応することとして、今年度は12件の派遣を行った。

表21 令和元年度講師派遣・調査指導等実績一覧

日・期間	派遣職員	依頼元	内容	派遣場所
平成31年4月21日	吉成承三	高知県立高知城歴史博物館	高知県立高知城歴史博物館企画展記念講演会講師「江戸時代へ行ってみよう！～高知の城下町展」	高知県立高知城歴史博物館
令和元年5月29日	吉成承三	いの史談会	いの史談会会員研修の講演会講師「高知の城下町を掘る～近年の発掘調査成果～」	いの町立図書館
令和元年6月3・4日	松田直則	宇和史談会	宇和史談会会員現地研修の講師	南国市土佐国衙跡、岡豊城跡、埋蔵文化財センター、高知市高知城跡
令和元年6月28日	松田直則	岡豊地区の史跡、自然を学ぶ会(楽しむ会)・南国市立岡豊ふれあい館	「岡豊城と周辺の山城について」講師	南国市立岡豊ふれあい館
令和元年7月25日	吉成承三	いの史談会	いの史談会会員研修の講演会講師「山城の構造について」	いの町立図書館
令和元年7月26日	山崎孝盛	野市史談会	野市史談会の講演会講師「東野土居遺跡について」	香南市野市図書館
令和元年10月2日	吉成承三	高知市観光協会	第12回土佐観光ボランティア養成講座講師「高知城の概要」	高知県立高知城歴史博物館
令和元年11月15日	吉成承三	南国市教育委員会	埋蔵文化財包蔵地の遺構確認調査の助言指導	南国市亀岩坂本城跡
令和元年12月5日	坂本裕一	中央地区文化財保護連絡協議会	中央地区文化財保護連絡協議会第2回文化財保護担当者等研修会講師「嶺北地域の遺跡展」について	本山町プラチナセンター
令和元年12月16日	久家隆芳	香美市立舟入小学校 PTA	6学年 PTA 行事での香美市内の遺跡の発掘調査についての授業	香美市立舟入小学校
令和2年2月15日	吉成承三 下木千佳	新堀川を考える新堀小 OBOG の会	「新堀川発掘調査成果と石垣について」講師	高知市菜園場町横堀公園発掘現場
令和2年2月28日	山崎孝盛	野市史談会	野市史談会学習会講師「鎌倉時代の土佐」	香南市野市図書館

IV 各遺跡の発掘調査概要

1. 若宮ノ東遺跡(19-1NW)

所在地 南国市篠原

立地 台地縁辺部

時代 弥生時代～近世

調査期間 令和元年5月7日～11月22日

調査面積 2,639㎡

担当者 西村豊史・久家隆芳

調査内容 若宮ノ東遺跡は高知県が計画している都市計画道路高知南国線建設に伴い平成28年度から発掘調査を継続して実施しており、今年度が4年目にあたる。これまでの調査成果から

弥生時代、古墳時代、飛鳥時代、古代、中世及び近世の複合遺跡であることが明らかとなっている。検出遺構には竪穴建物跡、土器棺墓、掘立柱建物跡、井戸跡、土坑、溝跡等があり、その中でも溝と塀で囲まれた大型掘立柱建物跡、古代の正倉と考えられる総柱建物跡など重要な遺構の発見が相次いでいる。出土遺物には弥生土器・土師器・須恵器・緑釉陶器・陶器・白磁・青磁・石器・鉄器等があり、そのうち弥生時代の内行花文鏡の破鏡、8世紀後半の「東」と墨書された須恵器の杯、10世紀末～11世紀代の「作」の字が刻書された土師器の輪花皿は特筆すべきものである。当遺跡は長岡台地から平野部に続く変換地点に位置し、調査対象地周辺の微地形は北東方向から南西方向にむかって緩やかに下がっていく。今年度の調査区は当遺跡の西端部付近であり、これにより未調査部分はあるものの東端から西端までの様相が概ね把握できたことになる。

今年度の調査では弥生時代・古代・中世・近世の遺構・遺物を検出した。弥生時代では竪穴建物跡を7軒、土器棺墓を2基検出した。竪穴建物跡は平面形が五角形のものが1軒ある他はすべて隅丸方形である。調査区は居住域の縁辺部に該当するものと考えられ、竪穴建物跡が分布する範囲は昨年度よりもさらに広がり、東西約430mとなった。これまでの発掘調査で検出した竪穴建物跡は100軒近くを数え、土地区画整理事業に伴って南国市教育委員会が実施している発掘調査部分の成果を合わせるとその数はさらに増える。弥生時代後期後半から古墳時代初頭の集落跡では高知県内最大規模のものである。また、土器棺墓は同時期の竪穴建物跡に近接して2基築かれていた。大型の壺、中型の壺を棺として使用している。壺の大きさから小児棺と考えられる。県内の土器棺墓は居住域に隣接して一箇所に集中する



図9 若宮ノ東遺跡位置図



写真22 遺構完掘状態

1. 若宮ノ東遺跡

タイプと土器棺墓が同時期の竪穴建物跡に近接し散在するタイプがあり、当遺跡は後者のタイプである。

古代では6棟の掘立柱建物跡を検出した。建物跡の主軸方位はN - 12° - E前後であり、いわゆる香長条理の方位と一致する。これらの掘立柱建物跡の柱筋は比較的通ることから企画性が認められ、昨年度調査した奈良時代の井戸跡に伴う雑舎群と考えられる。当遺跡では東部と西部で古代の建物群を検出しており、今年度調査部分は西部に属する。東部と西部とは規模及び配置等に違いがみられ、時期差あるいは機能差を反映していると考えられる。

中世では幅約1.2mの溝で囲まれた屋敷地を5箇所検出した。出土遺物から中世後期のものと考えられ、当該期の遺構・遺物が当遺跡でまとまって確認されたのは今年度の調査が初めてである。これらの屋敷地を検出したのは当遺跡の西端部に該当する。現在の水路と発掘調査で検出した溝跡の位置は類似しており、現在の区画は当時の区画を踏襲している部分がある。区画溝で囲まれた内側では柱穴、井戸跡、土坑墓等を検出した。溝跡の壁は垂直に近く立ち上がり深いものもある。溝跡の多くは調査区外へのびることから区画の形及び規模、そして区画内部の詳細については不明である。屋敷地を正方形と仮定すると一辺20m程度と考えられ、一区画の敷地面積は約400㎡となる。柱穴(掘立柱建物跡)を検出したことはすべての区画で共通するものの、土坑墓を検出した区画、井戸跡を検出した区画があり、区画内の発掘調査した部分によるものと推測される。2基の土坑墓は主軸方向を揃え、近接し並列して造られていた。そのうちの1基からは土師器の杯2点、皿3点が北西部にまとめて置かれ、副葬品と考えられる。また、井戸跡は直径約1.2mの石組みのもので、景德鎮製の陶磁器が出土している。



写真23 土器棺墓完掘状態

発掘調査は4年目を終え、調査面積は合計で約10,000㎡となった。これまでの調査で検出した竪穴建物跡100軒弱、掘立柱建物跡約20棟(現在までに復元したもの)、土坑約410基、溝跡約120条、土器棺墓5基を数える。当遺跡は弥生時代から中世後期、近世までの長期間にわたって営まれている遺跡であり、各時代とも高知県の歴史を復元する上で重要な性格を持っている。



写真24 井戸跡完掘状態

2. 新堀川護岸 (19-2KS)

所在地 高知市菜園場町

立地 沖積地

時代 近世～近代

調査期間 令和元年9月26日～令和2年1月31日

調査面積 877 m²

担当者 徳平涼子・下木千佳

調査内容 新堀川護岸は高知県が計画している都市計画道路はりまや町一宮線県単街路整備事業に伴い平成30年度から発掘調査を実施しており、今年度が2年目にあたる。1次調査では遺構面を確認するための部分的な発掘調査、石垣オルソの作成、新堀埋設範囲を確認するためのレーダ探査を行った。これらの調査より4面に渡る遺構面が確認されたことを鑑み、2次調査を行った。調査面積は工事の影響を受ける約877 m²を対象とした。調査の対象地内は新堀川護岸の中でも「木屋」と号す商家竹村家が戦後まで所有していた区画である。

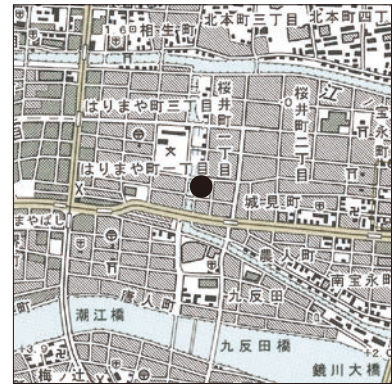


図10 新堀川護岸位置図

第1遺構面では竹村家の廃絶期である昭和20年頃の遺構面が確認できた。戦前・戦後の写真や図面から母屋や店舗はある程度場所や規模が推定されていたが、土佐藩家臣深尾家の別邸を移設し「巢窟庵」と呼ばれていた建物の詳細は明らかではなかった。しかし、今回の調査によって建物基礎の規模や、瓦を使用していた事から巢窟庵の可能性が高く、商家の中でも裕福であったことを裏付ける資料となった。

第2遺構面では明治から大正時代の遺構や遺物を確認した。巢窟庵の下層に南北の胴木を持ち、石列を伴う溝や礎板を確認した。

第3遺構面は19世紀初頭～中頃の石灰岩の礎板を持つ建物跡をはじめとした遺構や遺物を確認した。亀甲積みの石垣が安政地震の復興とともに築かれたものであるとすれば、第2遺構面と第3遺構面の間にその時期があると考えられる。

第4遺構面は17世紀後半から18世紀初頭であり、竹村家が所有する前段階である。土地利用などに変化がみられ、今後新堀川護岸の石垣の構築時期を考える上でも貴重な成果と言える。

全体の遺構面を通して柱穴や溝、土坑、石



写真25 第1遺構面遺構完掘状態(北西より)

2. 新堀川護岸

列が検出された。溝に伴う石列や、礎板の石材は大部分に石灰岩が使用されており、一部チャートや砂岩がみられた。

遺物は陶器や磁器の碗・皿が多くを占め、土師器・石製品・鉄製品・ガラス製品も出土している。

地震や土砂災害の影響を受けていることが文献により判明してい



写真26 第3遺構面遺構完掘状態(西より)

る土地であるが、噴砂や断層などをはじめとした具体的な痕跡を確認することはできなかった。また、安政地震によって母屋が倒壊した際に瓦が落ち、土手が崩落したと伝えられているが、これらを裏付ける遺構などは検出していない。第4遺構面においては、生活面が非常に低くなり恒常的に湧水する。沈下対策と思われるシルト質中粒砂の整地層が確認できたことを含め、地盤沈下している可能性は否定できない。

今回の発掘調査によって、竹村家の実態を裏付ける遺構・遺物が確認できたことや、絵図や文献資料において明確に判明していなかった竹村家が居住する以前の段階が確認できたことは大きな成果である。

V 条例・規則等

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(平成17年7月19日条例第55号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成3年高知県条例第3号)の全部を改正する。

(設置)

第1条 埋蔵文化財を調査研究し、及び保存するとともに、公開し、及び活用することにより、埋蔵文化財に関する知識を深め、もって県民文化の振興に寄与するため、高知県立埋蔵文化財センター(以下「センター」という。)を南国市に設置する。

(指定管理者による管理等)

第2条 センターの管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定に基づき、法人その他の団体であつて、教育委員会が指定するもの(以下「指定管理者」という。)にこれを行わせるものとする。

2 前項の規定により指定管理者にセンターの管理を行わせる場合においては、教育委員会は、指定管理者の指定を受けようとするものを公募するものとする。ただし、センターの適正な管理を確保するため公募を行わないことについて相当の理由がある場合は、教育委員会が適当と認める法人その他の団体を指定管理者の候補者として選定することができる。

(休館日)

第3条 センターの休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日並びに国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- (2) 12月29日から翌年の1月3日まで

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要があると認めたとき又は指定管理者が必要があると認める場合であつてあらかじめ教育委員会の承認を得たときは、同項に規定する休館日を変更し、又は臨時に休館日を定めることができる。

(利用時間)

第4条 センターの利用時間は、午前8時30分から午後5時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要があると認めたとき又は指定管理者が必要があると認める場合であつてあらかじめ教育委員会の承認を得たときは、同項に規定する利用時間を変更することができる。

(センターの利用)

第5条 センターを利用する者(以下「利用者」という。)は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料(次条において「埋蔵文化財等」という。)の観覧、閲覧、撮影又は模写等を行うことができる。

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(遵守事項)

第6条 利用者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) センターの施設、設備若しくは埋蔵文化財等(以下「設備等」という。)を損傷し、又はそのおそれのある行為をしないこと。
- (2) 他の利用者に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、センターの管理上必要な指示に反する行為をしないこと。

(損害賠償義務)

第7条 利用者又は指定管理者は、故意又は過失によりセンターの設備等を損傷し、又は滅失したときは、これによって生じた損害を知事の認定に基づき賠償しなければならない。

(指定管理者が行う業務)

第8条 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) センターの設備等の維持管理に関する業務
- (2) センターの設置の目的を達成するための事業の企画及び運営に関する業務

(指定管理者の指定の申請)

第9条 第2条第2項本文の規定により指定管理者の公募を行った場合において、同条第1項に規定する指定管理者の指定を受けようとするものは、教育委員会規則で定める申請書に次に掲げる書類を添えて、当該指定について教育委員会に申請しなければならない。

- (1) 前条各号に規定する業務(以下「業務」という。)に係る事業計画書
- (2) 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして教育委員会規則で定める書類

(指定管理者の指定等)

第10条 教育委員会は、前条の規定による申請があったときは、次の各号のいずれにも該当するもののうちから指定管理者の候補者を選定するものとする。

- (1) 前条第1号の事業計画書(以下この項において「事業計画書」という。)によるセンターの管理が県民の平等利用を確保することができるものであること。
- (2) 事業計画書の内容がセンターの効用を最大限に発揮させるとともに、その業務に係る経費の縮減が図られるものであること。
- (3) 事業計画書に沿った業務を安定して行う物的能力及び人的能力を有しており、又は確保できるものであること。
- (4) 事業計画書による業務の実施により、県民の埋蔵文化財に関する知識を深め、県民文化の振興に寄与することができるものであること。

2 教育委員会は、第2条第2項ただし書の規定に基づき又は前項の規定により指定管理者の候補者を選定したときは、議会の議決を経て指定管理者として指定するものとする。

3 指定管理者は、その名称、主たる事務所の所在地その他教育委員会規則で定める事項に変更があったときは、遅滞なく、その旨を教育委員会に届け出なければならない。

(事業報告書の作成及び提出)

第11条 指定管理者は、毎年度終了後30日以内に、次に掲げる事項を記載した事業報告書を作成し、教育委員会に提出しなければならない。ただし、年度の途中において、第13条第1項の規定に

基づき指定を取り消されたときは、その取り消された日から起算して30日以内に当該年度の当該日までの間の事業報告書を提出しなければならない。

- (1) 業務の実施状況及び利用者の利用状況
- (2) 業務に係る経費等の収支状況
- (3) 前2号に掲げるもののほか、指定管理者によるセンターの管理の実態を把握するために教育委員会が必要であると認めるもの

(業務報告の聴取等)

第12条 教育委員会は、センターの管理の適正を期するため、指定管理者に対して、業務及びその経理の状況に関し定期に又は必要に応じて臨時に報告を求め、実地に調査し、又は必要な指示をすることができる。

(指定の取消し等)

第13条 教育委員会は、指定管理者が前条の指示に従わないときその他指定管理者による管理を継続することが適当でないと認めるときは、その指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命ずることができる。

2 前項の規定に基づき指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命じた場合において指定管理者に損害が生じても、県はその賠償の責めを負わない。

(指定等の告示)

第14条 教育委員会は、次に掲げる場合には、その旨を告示するものとする。

- (1) 第10条第2項の規定による指定をしたとき。
- (2) 第10条第3項の規定による名称又は主たる事務所の所在地の変更に係る届出があったとき。
- (3) 前条第1項の規定に基づき指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命じたとき。

(原状回復義務)

第15条 指定管理者は、その指定の期間が満了したとき又は第13条第1項の規定に基づき指定を取り消され、若しくは期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命ぜられたときは、その管理しなくなった設備等を速やかに原状に回復しなければならない。ただし、教育委員会の承認を得たときは、この限りでない。

(秘密保持義務)

第16条 指定管理者又は業務に従事している者は、高知県個人情報保護条例(平成13年高知県条例第2号)の規定を遵守し個人情報を保護するとともに、業務に関し知り得た秘密を他に漏らし、又は自己の利益のために利用してはならない。指定管理者の指定の期間が満了し、若しくは指定を取り消され、又は業務に従事している者がその職務を退いた後においても、同様とする。

(委任)

第17条 この条例に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

附則

(施行期日)

1 この条例は、平成18年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為)

2 この条例による改正後の高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(以下「改正後の条例」という。)第2条第1項に規定する指定管理者の指定及び当該指定に関し必要なその他の行為は、この条例の施行の日前においても、改正後の条例第9条並びに第10条第1項及び第2項の規定の例により行うことができる。

(経過措置)

3 この条例の施行の際現にこの条例による改正前の高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例第2条の規定に基づき委託している高知県立埋蔵文化財センターの管理については、平成18年9月1日(同日前に改正後の条例第10条第2項の規定による指定をした場合は、当該指定の日)までの間は、なお従前の例による。

2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則

(平成17年7月29日教育委員会規則第30号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則(平成3年高知県教育委員会規則第5号)の全部を改正する。

(趣旨)

第1条 この規則は、高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成17年高知県条例第55号。以下「条例」という。)第17条の規定に基づき、高知県立埋蔵文化財センター(第4条において「センター」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(指定管理者の指定の申請に必要な書類)

第2条 条例第9条の教育委員会規則で定める申請書は、別記様式によるものとする。

2 条例第9条第2号の教育委員会規則で定める書類は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 条例第8条各号に規定する業務に係る収支予算書
- (2) 定款、寄附行為、規約その他これらに類する書類
- (3) 法人にあっては当該法人の登記事項証明書、法人以外の団体にあっては代表者の住民票の写し
- (4) 前項の申請書を提出する日の属する事業年度及び前事業年度に係る財務諸表等経営の状況を示す書類
- (5) 前各号に掲げる書類のほか、教育委員会が必要があると認める書類

(指定管理者に係る変更届出事項)

第3条 条例第10条第3項の教育委員会規則で定める事項は、指定管理者の代表者の氏名とする。

(委任)

第4条 この規則に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附則

(施行期日)

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為として行う申請に必要な書類)

2 条例附則第2項の規定に基づき、条例の施行の日前において行う指定管理者の指定の申請に必要な書類については、第2条の規定の例による。

別記様式(第2条関係)

指定管理者指定申請書

3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定

3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定

高知県教育委員会指令 29 高文財第 889 号

公益財団法人高知県文化財団 様

平成 29 年 11 月 8 日付けで申請のありました高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例第 9 条の規定に基づく指定管理者の指定については、同条例第 10 条第 2 項の規定に基づき指定します。

平成 29 年 12 月 21 日

高知県教育長 田村 壮児

1 施設の名称

高知県立埋蔵文化財センター

2 施設の所在地

南国市篠原南泉 1437 - 1

3 指定期間

平成 30 年 4 月 1 日から平成 35 年 3 月 31 日まで

高知県埋蔵文化財センター年報

第29号

2019年度

発行日 令和3年3月4日

発行 (公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
〒783-0006

高知県南国市篠原1437-1

Tel. 088-864-0671 Fax. 088-864-1423

URL. <https://www.kochi-maibun.jp/>

印刷 川北印刷株式会社

